

耶穌降生一千八百一十五年 北英國聖書

舊約聖書 中今二言記

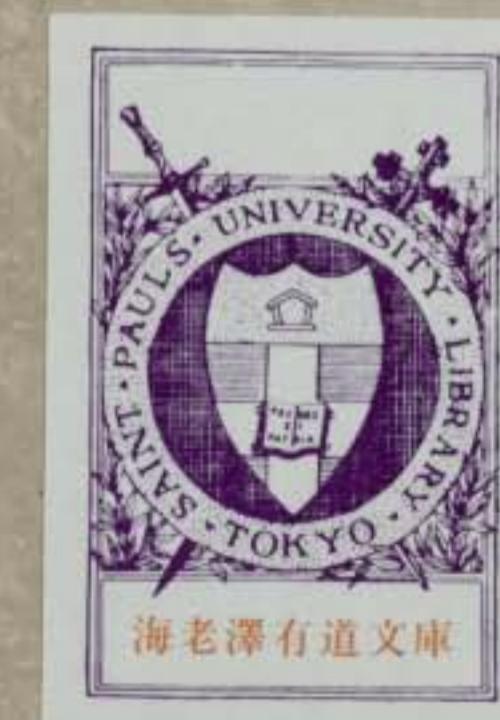
明治十八年

日本横濱印行

02-KI

海老澤文庫

申命記
是れモ一セグヨルダンの此旁の曠野紅海に對する平野
ふ在てバラントベルラバンハセロテデザハブの間ふてイスラエ
ルの一切の人間に告たる言語なりニホレブよりセイル山の路を經
てカデシバル子アふ至るにハ十一年路あり三第四十年の十一月
ふいたりうの月の一日にモトセハイスラエルの子孫にむかひて
エホバの彼等のために自己に授けたまひし命令を悉く告たり四
是れはモーセダヘシボンふ住るアモリ人の王シボンおよびエデレ
イのアシタロテふ住るバシヤンの王オグを殺したる後ありき五
即ちモーセヨルダンの此旁あるモアブの地ちににおいてこの律法を
解明すことを爲し始めた日すでに久しセ汝ら
らに告て言たまへり汝らにての山に居てど其に鄰れる處々ふ往
身を轉ら来て途に進みアセリ人の山に往き其に鄰れる處々ふ往



き平野、山地、窪地、南の地、海邊、カナシ人の地レバノンより大河ヨ^リ
 フラテ河に到れハ我この地を汝らの前に置り入てこの地を獲よ
 是ハエホバ^{ガロ}の汝らの先祖アブラハムイサクヤコブに誓ひて之を
 彼らとろの後^{スル}子孫に與へんと言たまひし者ありとれ彼時我あ
 んちらに語りて言り我ハ一人ふては汝らをわグ任として負こと
 あたはず^{カタ}汝らの神エホバ汝らを衆多あら志めたまひたれバ汝
 ら今日ハ天空の星^{ミシ}ほどくに衆^{シテ}願く汝らの先祖の神エホバ
 バ汝らをして今あるよりは千倍も多くならぬめ又あんちらに約^シ汝
 東せしごとく汝らを祝福たまひんことをナ我一人ふては争で汝
 らを吾任とあしまた汝らは重負と汝らの争競に當ることを得ん
 や^ミ汝らの支派の中より智慧あり知識ありて人に識^シたる人々に約^シ汝
 を簡べ我こを汝らの首長とあさんと十四時に汝ら答へて言り汝
 グ言ふところの事を爲^ス善しと十五是をもて我汝らの支派の首長あ
 判^セくべし他國の人においても然りまた彼時に我汝らの士師等に命じ
 す小き者にも大^ヒある者にも聽^ヒべし人^の面を懼^スるべからず審判す
 神の事^ニあ^リ汝らにおいても然り^アまた彼時に我汝らの士師等に命じ
 じたりき○^ア我等の神エホバの我等に命じたまひしごとくに我^ア持^キたれ我^ア
 等^アホレブより出たち汝らが見知るのの大^ヒある畏^スき曠野を通^ス我なんち
 りアモリ人^ア山を指してカデシバル子アに至れり^ア時ふ我なんち
 の山ふ至れり^ア視よ汝の神エホバ^アこの地を汝の前ふ置たまふ汝

る智慧ありて人ふ知^シたる者等を取て汝らの首長とあせり即ち
 之をもて千人の長百人の長五十人の長拾人の長とあしまた汝ら
 の支派の中の官吏とあせりまた彼時に我汝らの士師等に命じ
 す小き者にも大^ヒある者にも聽^ヒべし人^の面を懼^スるべからず審判す
 神の事^ニあ^リ汝らにおいても然り^アまた彼時に我汝らの士師等に命じ
 じたりき○^ア我等の神エホバの我等に命じたまひしごとくに我^ア持^キたれ我^ア
 等^アホレブより出たち汝らが見知るのの大^ヒある畏^スき曠野を通^ス我なんち
 りアモリ人^ア山を指してカデシバル子アに至れり^ア時ふ我なんち
 の山ふ至れり^ア視よ汝の神エホバ^アこの地を汝の前ふ置たまふ汝

の先祖の神エホバの汝に言たまふごとく上り往てこきを獲よ懼るふみかれ猶豫みられど三汝らみる我に近りて言り我等人を我らの先ふ遣してろの地を伺察志め彼らをして返て何の途より上るべきか何の邑々に入るべきかを我らに告志めんと三この言わみ派より一人宛ありき旨彼等前みゆきて山に登りエシコルの谷に目ふ善と見けきバ我汝らの中より十二人の者を取り即ち一ヶ支其處に見たりと斯いひて我らの氣を挫けりと元時に我あんぢらふ言り怖る勿れ懼るふかれ三汝らふ先ち行たまふ汝らの神エホバエシプロトにあいて汝らの爲ふ汝らの目の前ふて諸の事をあしたまひし如く今また汝らのために戰ひたまひん三曠野においては汝また汝の神エホバぐ人けろの子を抱くダ如くに汝を抱きたまひ玄を見たり汝らダ此處にいたるまでろの路すダら常ふ然あり玄ありと三この言をあせども汝らのなほるの神エホバさり玄を尋ね夜は火の中にあり晝へ雲の中にありて汝らダ營を張べき途を示したまへる者あり旨エホバ汝らの言語聲を聞て怒り祖等ふ與へんと誓ひしかの善地を見る者一人も有さるべし云只

く邑々大ふしてろれ石垣ハ天に達る我らまたアナクの子孫をいたり之を伺ひ三の地の菓物を手ふ取てわきらの許に持くだり我らに復命して言り我等の神エホバの我等に與へたまへる地は善地ありと云然るに汝等ひ上り往ことを好まずして汝らの神エホバわれらを惡むグ故ふ我らをアモリ人の手ふ付して滅ばさんとてエシプロトの國より我らを導き出せり元我等の何方に往べきや我らの兄弟等の言ふろの民ハ我らよりも大ふして身長たか

エブン子の子カルブのみ之を見ることを得ん彼が蹠たりし地を
もて我か乞とう乞の子孫に與ふべし其れ彼まつたくエホバふ從
ひたれをあり三モエホバまた汝らの故をもて我をも怒て言たまへ
り汝もまた彼處に入ることを得ず三汝の前に侍るスンの子ヨシユ
アカシコに入ることを得ず彼に力をつけよ彼イスラエルを玄て之を獲志
ムベシ三また汝等ダ掠めら也んと言たりしロの汝らの子女およ
び當日にあ同善し惡を辨へざりし汝らの幼兒等彼ら即ちかしこ
ム入べし我これを彼らに與へて獲さすべし四汝ら之身をめぐら
し紅海の途より曠野ふ進みいるべしと曰然るに汝ら對て我おい
へり我等れエホバにむかひて罪を犯せり然ばわきらの神エホバ
の凡て我らに命じたまへるダとく我ら上りゆきて戰ひんと汝
らおのゝ武器を身に帶て軽々しく山に登らんとせり四時ふエ
ホバわれに言たまひける汝かれらに言へ汝ら上りゆくあか乞

又戰ふるかき我あんちらの中間ふ居ざれをあり汝ら恐らくな
の敵に打敗られんと里われかく汝らふ告たるに汝ら聽すしてエモ
水バの命令ふ背き自擅ふ山に登りたり蜂の驅びごとくに汝らを驅ちらし
り人汝等にむかひて出きたり蜂斯り志うをあ
んちらをセイルに打敗りてホルマにあよべり豈斯り志うをあ
んちら還りきたりエホバの前まに哭きたりしがエホバあんちら
の聲を聽たまひ汝らに耳を傾むけたまひさりき是をもてな
んちら久しくカデシに居りあんちらが其處に居たる日數の
ごとし目久しくエホバの我ふ命じたまへる如く

て言へ汝らにセイルに住るエサウの子孫なる汝らは兄弟の境界
を通らんとす彼らあんちらを懼れん汝ら深く自ら謹むべし五
彼らを攻る勿色彼らの地足の跡に蹠もほどをも汝らに與へヒ其
は我セイル山をエサウにあたへて産業とふさ志めた邑バあり六
汝ら金をもて彼らより食物を買て食ひまた金をもて彼らより水
をもとめて飲めセ汝の神エホバ汝グ手ふ作とふろの諸の事にお
いて汝をめぐみ汝ダこの大ある曠野を通るを看るあはしたまへ
り汝の神エホバこの四十年のあひだ汝とももに在したれば汝の
乏しき所あらざりしありハ我らつひにセイル山に住るエサウの
子孫ある我らの兄弟を離れてアラバの路を通りエラテとエシオ
ンゲベルを経て轉りてモアブの曠野の路に進みいきり元時にエ
本バわをふ言たまひけるモアブ人をあやますあくまゝた之を
攻めて戰かふあれ彼らは地をを我あんちらの産業に與へヒ其の

アルを通らんとす。汝アンモンの子孫に近く時に之をあやま
す勿れ。之を攻るあかれアンモンの子孫の地へ我これを汝らの産
業に與へヒ其そ我これをロトの子孫ふあたへて産業とあさしめ
たきをあり。是もまたレバイスの國とよびあさきたり。昔レバイ
ムにて、に住ゐたきがあり。アンモン人のかきらをザムズミ人とよ
ベり。この民は大にして數多くアナク人のごとくふ身長たか
シ人を逐はらひ之にかはりて今日まで其處に住むを。アソモン
リ人を逐はれたるカフトリ人はまたかの村々に住ひてガザにまで
到るところのアビ人を滅ぼしたまひしが如し彼らはホ
トルより出たるカフトリ人にかはりて住り三カフ
あゲリ進みてアルノン河を涉色我ヘシボンの王アモリ人シボン
エサウの子孫アルに住むるモアブ人と我らの神エホバの王シボン
にいたらんと。然るふヘシボンの王シボンは我らの神エホバの
容さかりき。是は汝の神エホバ彼を汝の手に付さんと。て通る時
頑梗しろの心を剛愎にしたまひけるは観よ。我いまシボンと
にエホバ我に言たまひけるは観よ。我いまシボンとあれの地を汝

とこれの國を汝らの手ふ付す。進んで之を獲よ。彼を攻て戦うへ
今日は我一天下の國人に汝を畏ぢ汝を懼色。志めん。彼らは汝の名聲
を聞いて懼ひ汝の爲に心を苦めんと。茲に我ケデモテの曠野より
轉らヒニ汝金をとりて食ひ物を我に賣て通らんのみ元セイルに住る
こぞ我に汝の國を通ら玄めよ。我は大路を通りて行ん。右にも左にも
にあたへて飲せよ。我はたゞ徒步にて通らんの。み元セイルに住る
エサウの子孫アルに住むるモアブ人と我らの神エホバの王シボン
然せば我はヨルダンを濟りて我らの神エホバ彼を汝の手に付さんと。て
にいたらんと。然るふヘシボンの王シボンは我らの神エホバの
容さかりき。是は汝の神エホバ彼を汝の手に付さんと。て通る時
頑梗しろの心を剛愎にしたまひけるは観よ。我いまシボンと
にエホバ我に言たまひけるは観よ。我いまシボンとあれの地を汝

に與へんとす進んで汝の地を獲て汝の產業とせよと三茲ふシホ
ンろの民をてとトぐく率ゐて出きたりヤハツに於て戰ひけるダ
三我らの神エホバ彼をわれらふ付したまひたれば我らか邑どろ
の子等どろの一切の民を擊殺せり吾の時々に我らの彼邑々を
盡く取りろの一すべての邑の男女よりび邑々くよび兒童を滅して一人をも遺さ
獲て自分の物とあせり三アルノンの河邊のアロエルより我ら河辺
傍ある邑よりギレアデにいたるまで我らの攻め取つたき邑とてそ
一もあらざりき我らの神エホバふ邑を盡くわれちふ付したまへ
り三モ第アンモンの子孫そんの神エホバの我らの地ヤボク川は全岸山地の邑々くあど凡てそ
也我らの神エホバの我ら身をめぐらしてバセヤンの路もに上り行ける
りき

ひて彼らもまたヨルダンの彼旁にて汝らの神エホバふたまひる
とてろの地を獲て産業となすに至ら必汝らのく我があんち
らに與へし産業ふ歸るべしニかの時ふ我ヨシュアふ命じて言り
汝はこの二人の王ふ汝らの神エホバのあとあひたまふ所の事を
目ふ視たりエホバまた汝ダ往とてろの諸の國ふも斯のごとく行
戦ひたまはんと○三當時わきエホバに求めて言り旨主エホバよ
ひたまはん三汝これを懼る勿き汝らの神エホバ汝らのために
汝は汝の大なる事と汝の強き手を僕ふ見すてとを始めたまへり
天にても地ふても何の神か能なんちの如き事業を爲し汝のと
き能力を有んや三願くは我を玄て涉りゆかしめヨルダンの彼旁
ある美地美山およびレバノンを見て得させたまへど云然る
にエホバあんちらの故をもて我を怒り我に聽てとを得ざる
エホバをあいち我に言ひたまひけるは既に足りてこの事を重て我ふ

言ふあかれモ汝ビスガの巔ふの下り目を舉て西北南東を望み汝の
目をもて其地を觀よ汝ハヨルダンを濟ることを得ざるべけれを
あり元汝ヨシュアふ命ヒ之に力をつけ之を堅うせよ其ハこの民な
れを率ゐて涉りゆき之に汝が見るところの地を獲さする者ハ彼のみ
れをありと云うくて我らハベテベオルふ對する谷ふ居る
られを行へ然せば汝らハ生ることを得汝らの先祖の神エホバの汝
らに賜ふ地ふりて之を産業となすを得べしニ我が汝らふ命す
る言は汝らの命を守るべしニ汝らハ生ることを得ざる汝
らの神エホバの命を守るべしニ汝らハ生ることを得ざる汝
の事によりて行ひたまひし所を目に觀たり即ちバアルベオル
従ふひたる人々は汝の神エホバと云く之を汝らの中間より
滅しそ去たまひし日汝らの神エホバふ附て離れざりし汝等のみ

な今日までも生ながらへ居るあり 我はわざ神エホバの我に命
じたまひし如くふ法度と律法を汝らに教へ汝らを志めんとせり 六
獲とてろの地にあいて之を行は志めんとせり 然ば汝ら之を守
り行ふべし然する事は國國の民の目の前にあいて汝らの智慧た
り汝らの知識たるあり彼らての諸の法度を開て言んこの大
國人は必ず智慧あり知識ある民ありとセ わきらの神エホバ
らおこれに顧もどむるふ常に我らに近く在すナ
のごとく大ににして今日我ガ汝らの前に立すナ
しき法度と律法とを有るナ
汝の心を離れん恐く汝の前立つ
の中ふ其等の事汝の心を忘れん恐く汝の前立つ
汝ダホレブふおいて汝の神エホバの前立つ
敷へよナ

バ われ ふ 言たまひけらく 我ため ふ 民を 集めよ 我 これ ふ 吾言を 聽か
志め之と志てろの世 ふ存らふる日 の間 我を畏る 事とを 學べせ
また うの子女を 散ふる ふとを 爲志めん とすと は 是 ふ おいて 汝ら
に 前みよりて 山に麓に立ちけるが山の火にて焼てろの儀は中天
に 沖り暗くして 雲あり 黒雲深かりき 十二時 に エホバ 火の中より汝
ら ふ言ひたまひしが汝らの言詞の聲を聞る而已 ふて聲は外は何
は像をも見ざりし エホバ するはち其契約を汝らに述て汝らに
之を守きと命じたまへり 是するはち十誠ふしてエホバ ふきを二
枚の石の板に書したまふ古かの時にエホバ 我に命じて汝らに法
度と律法を教へ志めたまへり 是汝らふるの往て獲てころの地ふ
て之を爲志めんとてありき十五ホレブ ふおいてエホバ 火の中より
汝らに言ひたまひし日に之汝ら何の像をも見ざりしなり 然べ汝
ら深く自ら慎み夫道をあやよりて自己のために偶像を刻む勿れ

の神エホバの禁カムじたまふ偶像カミふと凡て物の像を刻むことを爲スル
かれハ汝の神エホバは燐盡カツクす火妖カツル妬神カムラあり○ハ汝ら子を擧スルけ孫マキ
を得てハるの地に長く居マサニふおよびて若し道をあやよりて偶像カミふど
凡て物の像を刻み汝の神エホバの惡と觀たまふ事をあしてハるの
震カタマリ怒を惹ハキあてすこハとあらばハ我今日天アメノヒと地アメノチを呼スルて證アカシとなす汝ら
はかふらすろのヨルダンを濟カタマリりゆきて獲ハカルたる地アメノチより速ハヤくに滅亡ハラヒ
うせん汝らはハるの上アベふ汝らの日ヒを永ハラハラする能ハはず必ず滅ハラヒびうせ
んモエホバハんぢらを國カミ々ハふ散ハラハラしたまふべしエホバの汝ハらを逐ハラヒ
やりたまふ國々ハの中ハふ汝ハらの遺ハラハラる者ハはハるの數寡ハラハラあからんハ其處ハ
にて汝ハらは入ハの手ハの作ハラハラある見ハラハラてハとハも聞ハラハラことハもハ但ハラハラしまハた其處ハふハても食ハラハラふハことハも嗅ハラハラふハと
もハみき木ハや石ハの神々ハふ事ハラハラへんハんハ但ハラハラしハまハた其處ハふハても食ハラハラふハことハも嗅ハラハラふハと
を求ハラハラむるあらんハ若ハラハラ心ハラハラをつくし精神ハラハラを盡ハラハラして此ハもろくハの事ハ

ベセル是之ルベシ人のためあり一はギレアデのラモテ是はガド
人のためあり一はバシヤンのゴラン是之マナセ人のためあり○
昌モ一セダイスラエルの子孫は前に元亥し律法は是あり豊イス
ラエルは子孫のエシプロトより出たる後モ一セこの誠命と法度と
律法を之に述たり異即ちヨルダンの此旁あるアモリ人の王シン
ンの地にありベテベオルふ對する谷ふ於て之を述たりシン
ヘシボンふ住をりしがモ一セトイスラエルの子孫エシプロトより
出きたりし後これを擊ほろばして四七之の地を獲またバシヤンは
王オグの地を獲たり彼ら二人はアモリ人の王にしてヨルダンは
此旁日の出る方に居り四八ろの獲たる地ハアルノン河の邊なるア
ロエルよりヘルモンといふシオン山ふいたり四九ヨルダンの此旁
するそちらは東の方あるアラバの全部を括てアラバの鹽海ふ達
しヒ太ガの麓にあよべり

第五章

たまふごとく汝の父母を敬へ是汝の神エホバの汝が賜ふ地にお
いて汝の日の長からんため汝に祥のあらんためありモ汝殺す勿
き十八汝姦淫する勿れ十九汝盜むみかれ二十汝ろの鄰ふ對して虚妄の
證據をたける勿れ三汝ろは隣人の妻を貪るあかれまた隣人は家
田野僕婢牛驢馬ならびふ凡て汝の隣人の所有を貪るあかれ三
等の言をエホバ山ふおいて火の中雲の中より大なる聲を
をもて汝らの全會衆に告げたまひしが此外ふれ言てどを爲す之を
二枚の石の版に書して我に授けたまへり三時ふろの山れ火にて
焼けをりしが汝ら黒暗の中より大なる聲を
の支派の長あよび長老等我に進みよりうの聲の出るを聞にあよびて
の神エホバの聲の火の中より出るを聞り我ら今日エホバ人と言ひたまひて我らの
の声の火の中より出るを聞り我らあん死ふいたるべけんや此大なる

る火われらを燒やきゆろばさんとするあり我らもし此上にあは我らの神エホバの聲こゑを聞きべ死死べし云いふ凡まん肉にく身じんの者の中誰か能のく活いける神の火の中より言いひたまふ聲こゑを我らのとく聞きてあは生うる者ものあらんやモ請うけふ汝な進すすミゆきて我らの神エホバの言いふところを我われ都つて聽き我われらの神エホバの汝な告つげふところを我われらに告げよエホバ我われふ言いたまひタるいわ我われこの民みんの汝な語かたれる言ことの聲こゑを聞きり彼かれらの言いふとふろい皆善みなよししニ二九只願ただねがはしきは彼かれ等らの斯かたのおとき心こころを懷いだく諸もろの誠まこと命めいと法ほう度どと律りつ法ほうとを告げ玄げんめさん汝なみ邑いを彼かれらに立たて我われ傍わざふ立たて我われあんちに彼かれらに與あたへて産業さんぎょうとなさ玄げんむる地ぢにあいて彼かれらふこ邑いを行は玄げんの天幕あままくふかへるべしと三さん然ぜんそ汝なを守まつりててろの身みももろの子孫こそんも永ながく福ふく彼かれらの誠まこと命めいと法ほう度どと律りつ法ほうとを告げ玄げんめさん汝なみ邑いを彼かれらに教きへ我われあんちに

第十一章 是すあそち汝ならの神エホバの汝な等らに命めいじたまふとくに汝なら謹つつみて行ゆふべし右うも左ひだりも曲まがるべくらす三さん汝ならの神エホバの汝ならふ命めいじたまふ一切すべの道みちに歩あるめ然なせば汝ならは生うることを得えんかり福祉ふくしを得えて汝ならの産業さんぎょうとする地ぢふ汝ならの日ひを長ながうすることを得えんを得えん又またあんちの日ひを永ながくら志めめんための者ものあり三さん然ぜんそ然ぜんを守まつら玄げんめんため聽きて謹つつんであれを行は然なせを汝な之の福ふく祉しを獲う汝なの先祖せんその神エホルよの汝なに言いたまひしがとく乳ちちと蜜みつの流るる國くにふて汝なの歎かなあ罔まいふ

増ん四 イスラエルよ聽け我らは神エホバと惟一のエホバあり五
汝心を盡し精神を盡し力を盡して汝は神エホバを愛すべし六今
日わグ汝に命ずる是らの言は汝これをろの心ふあらためセ勤て
汝の子等ふ教へ家に坐する時も路を歩む時も寝る時も興る時も
これを語るべし八汝またてきを汝の手に結びて號とみし汝の目
の間にあきて誌どみしたまた汝の家は柱と汝の門に書記すべし
オ汝の神エホバの汝の先祖アブラハムイサクヤコブにむうひ
て汝に與んど誓ひたりし地に汝を入れ志めん時は汝を玄て汝の建
たる者にあらざる大なる美しき邑々を得させ汝ダ盈せるに非
る諸の佳物を盈せる家を得させ汝が掘たる者ふあらざる掘井を
トの地奴隸たる家より導き出ゑし汝を飽ん三然る時は汝謹め汝をエジプ
エホバを畏れてこれに事へるの名を指て誓ふてとをすべし古汝
ら他の神々すみはち汝の四周ある民の神々に従づふべからず古
汝らの中にいます汝の神エホバは嫉妬神あれを恐く汝の神エ
マッサふおいて試みしがとく汝の神エホバを試むるあかきも汝
然せを汝福祉を獲かつエホバの義と視善と視たまふ事を行ふべし
地ふ入れてこれを産業とあすてとを得ん古エホバの汝の先祖エホバ
謹みて守るべし古汝エホバの汝の敵をことごく汝の前より遙はらひたま
ひし如く汝の敵をこどく汝の子あんちふ問てこの汝らの神エホバ
の日ひにいたりて汝の子に告げて言べし誠命と法度と律法とは何のためあるやと
に命じたまひし誠命と法度と律法とは何のためあるやと言ひを
汝ろの子に告げて言べし我らは昔エジプトにありてバロの奴隸た
り玄グエホバ強き手をもて我らをエジプトより導き出したまへ

り三即ちエホバわきらの目の前において大なる畏るべき微と奇蹟をエシブトとバロとろの全家とに示したまひ三我らを其處より導き出してろの曾てわれらの先祖に誓ひし地に我らを入せて之を我らに與へたまへり西而してエホバ我らにて諸の法度を守れと命じたまふ是われらを玄て我らは神エホバを畏れて常ふ幸あらしめんため又エホバ今日のおとく我らを守りて生命を保た玄めんとてありき三我らもしろの命ぜら色たるごとく此一切の誠命を我らの神エホバの前に謹んで守らせ是われらは義どあるべしと

第七章 一汝の神エホバ汝が往て獲べきところの地に汝を導きいり多は國々の民ヘテ人ギルガシ人アモリ人カナン人ベリジ人ヒビ人エブス入など汝よりも數多くして力ある七の民を汝の前より逐はらひたまはん時ニすみはち汝の神エホバかれらを汝ふ付

して汝にこれを擊せたまはん時は汝か邑らをことぐく滅すべし彼らと何の契約をもみすべからず彼らを憫むべからず三また彼らと婚姻をあすべからず汝の女子を彼の男子ふ與ふべからず彼の女子を汝の男子に娶るべからず四其は彼ら汝の男子を惑はれて我を離色しめ之を玄て他の神々に事つかへ玄むるありてエホバあれがために汝らにむかひて怒を發し俄然に汝を滅したまふにいたるべけ色をあり五汝らは反て斯か邑らに行ふべし即ちか邑らの壇を毀ちろの偶像を打摧きろヒアシラ像を斫たふし火をもてろヒ雕像を焚べし六其は汝は汝の神エホバの聖民ふきばありてエホバ汝の神エホバの地の面の諸の民れ中より汝を擇びて己の寶の寶の民どあしたまへりセエホバの汝らを愛し汝らを擇びたまひしは汝らの萬の民よりも數多かりしふ因にあらず汝らは萬の民の中に入て最も小き者あればなりハ但エホバ汝らを愛するに因りまた汝

汝らを導きいだし汝らをろの奴隸たりし家よりエホバ強き手をもて
ロの手より頤ひいだしたまへるあり。汝知べし汝の神エホバは
神にましまし眞實の神ふましまして之を愛しろ。誠命を守る者
にハ契約を保ち恩恵を因とてして千代にいたり。また之を悪む
者ふは覗面ふろの報をあしてこ邑を滅ぼしたまふ。エホバは己を
悪む者は緩からず覗面にてれに報いたまふ。され汝わが
日汝に命するとてろの誠命と法度と律法とを守りてこ邑を行
ふべし。汝らもし是らの律法を聽きこれを守り行はば汝の神エ
ホバ汝の先祖等ふ誓ひし契約を保ちて汝に恩恵をほどこしたま
はん。即ち汝を愛し汝を恵み汝の數を増したまひろの昔ふんち
ふ與へんと汝らの先祖等に誓たりし地ふおいて汝の兒女をめぐ
み汝の地の產物、穀物、酒、油等を殖し汝の牛の產汝の羊の產を増た
まふべし。十四汝は惠まるゝこと萬は民ふ愈らん汝らの中あよび汝
らの家畜の中には男も女も子あき者は無るべし。十五エホバまた諸
の疾病を汝の身より除きたまひ汝らが知る彼のエシブトの惡き
病を汝の身ふ臨ましめす。但汝を惡む者は無るべし。十六エホバまた諸
からすろの事汝の罟とみれをあり。汝是らの民り我よりも衆け
く減しつくすべし。彼らを憫み見べからずまた彼らのエシブトの惡き
色べ我いきでか之を逐そらふことを得ん。と心に謂ふか。汝かれ
らを懼るゝあられ汝の神エホバ。汝は汝の神に事ふべ
とてろの事を善く憶えよ。即ち汝ダ眼に見たる大ある試煉と徹
證と奇蹟と強き手と伸たる腕とを憶ねよ。汝の神エホバまた汝
て汝を導き出したまへり。是のごとく汝の神エホバ。即ち汝は神
エホバ。黄蜂を彼らの中

ふ遣りて終に彼らの遺れる者と汝の面を避て匿れたる者とを滅
したまはんニ汝かれらを懼る勿れ其は汝の神エホバ能カ力有
るを漸々に汝の前より逐はらひたまハ汝は急速に彼らを滅しつ
くす可らず恐くハ野の獸殖て汝に逼らんニ汝の神エホバ是等の國人
を汝に付し大に之を惶々慄かしめて終にてれを滅し盡し旨彼
らの王等を汝の手に付したまはん汝か色々の名を天より削け
るべし汝には當ることを得る者あくして汝つひふ之を滅ぼ志盡
するべし汝には金を貪るべからず之を己に取るべからず恐く
はるゝは汝の神ニホバの憎みたまふ者あれ也

第八章

べき者みをふあり
で行ふべし然せを汝ら生ることを得か内殖増しエホバの汝の先祖等に誓たまひし地ふ入りてこ邑を産業とあすことを得んニ汝記念べし汝の神エホバこの四十年の間汝をあて曠野の路に歩まん
めたまへり是汝を苦しめて汝を試驗み汝の心の如何あるか汝グの誠命を守るや否やを知んためて汝の先祖等も知ざりき三即ち汝を苦しめ汝を食らせたまへり是人ハシ而巳みて生る者にあらず人ハエホバの口より出る言ふよりて生る者ありと汝に知しめんが爲あり四この四十年のあひだ汝の衣服之古びて朽ず汝の足ハ腫ざりし五汝また心に念ふべし人代の子を懲戒ごとく汝の神エホバの誠命を守りろの道にあゆミ

てこれを畏るべし汝の神エホバ汝をして美地に到らしめたま
ふ是は谷ふも山にも水の流あり泉あり瀧水ある地八小麥大麥、葡萄
無花果、および石榴ある地油橄欖および蜜のある地汝は食ひ
食物ふ缺るところあく汝ふ何も乏しきところあらざる地ありう
の地の石すみはち鐵ろの山よりは銅を掘どるべし汝は食ひ
て飽き汝の神エホバにろの美地を己にたまひし事を謝すべし
汝わる今日あんちに命するエホバの誠命と律法と法度とを守ら
ずして汝の神エホバを忘るよにいたさるやう慎めよま汝食ひ
て飽き美しき家を建て住ふに至りまた汝の牛羊殖増し汝の金
銀殖増し汝の所有みみる殖増ふいたらん時に古恐くは汝心ふ驕り
より導き出しサ五汝を三ちびきて彼の大にして畏るべき曠野す
て汝の神エホバ之汝をエジプトの地奴隸たる家
うち蛇火の蛇蝎あとありて水あらざる乾ける地を通り汝らのた
めに堅き磐の中より水を出しま汝の先祖等の知さるマナを曠野
ふて汝に食せたまへり是みな汝を苦しめ汝を試みて終に福祉を
汝ふたまはんとてありきモ汝我力とわぐ手の動作によりて我ニ
の資財を得たりと心ふ謂あか色十六汝の神エホバを憶えよ其ニエ
ホバ汝に資財を得の力をたまふる色をあり斯亦たまふは汝の先
祖等に誓し契約を今日の如く行はんとてありモ汝もし汝の神エ
ホバを忘果て他の神々に従ぐひ之に事へて色を拜むことを爲
バ我今日汝らふ証をあす汝らはかあらず滅亡んニエホバの汝ら
の前に滅ぼしたまひし國々の民のとく汝らも滅亡べし是あん
ちらの神エホバの聲に汝ら亦たゞはき色べあり
も大にして強き國々に入てこきを取んとするの邑々は大にして
石垣の天に達りニろの民は汝グ知ところのアナクの子孫にして

第十一章
イスラエルよ聽け汝は今日ヨルダンを済りゆき汝より
てこれを畏るべし汝の神エホバ汝をして美地に到らしめたま
ふ是は谷ふも山にも水の流あり泉あり瀧水ある地八小麥大麥、葡萄
無花果、および石榴ある地油橄欖および蜜のある地汝は食ひ
食物ふ缺るところあく汝ふ何も乏しきところあらざる地ありう
の地の石すみはち鐵ろの山よりは銅を掘どるべし汝は食ひ
て飽き汝の神エホバにろの美地を己にたまひし事を謝すべし
汝わる今日あんちに命するエホバの誠命と律法と法度とを守ら
ずして汝の神エホバを忘るよにいたさるやう慎めよま汝食ひ
て飽き美しき家を建て住ふに至りまた汝の牛羊殖増し汝の金
銀殖増し汝の所有みみる殖増ふいたらん時に古恐くは汝心ふ驕り
より導き出しサ五汝を三ちびきて彼の大にして畏るべき曠野す
て汝の神エホバ之汝をエジプトの地奴隸たる家
うち蛇火の蛇蝎あとありて水あらざる乾ける地を通り汝らのた
めに堅き磐の中より水を出しま汝の先祖等の知さるマナを曠野
ふて汝に食せたまへり是みな汝を苦しめ汝を試みて終に福祉を
汝ふたまはんとてありきモ汝我力とわぐ手の動作によりて我ニ
の資財を得たりと心ふ謂あか色十六汝の神エホバを憶えよ其ニエ
ホバ汝に資財を得の力をたまふる色をあり斯亦たまふは汝の先
祖等に誓し契約を今日の如く行はんとてありモ汝もし汝の神エ
ホバを忘果て他の神々に従ぐひ之に事へて色を拜むことを爲
バ我今日汝らふ証をあす汝らはかあらず滅亡んニエホバの汝ら
の前に滅ぼしたまひし國々の民のとく汝らも滅亡べし是あん
ちらの神エホバの聲に汝ら亦たゞはき色べあり
も大にして強き國々に入てこきを取んとするの邑々は大にして
石垣の天に達りニろの民は汝グ知ところのアナクの子孫にして

我懼きたりしが此度もまたエホバ我ふ聽たまへりニエホバまた
痛くアロンを怒りてこれを滅ゼロフさんと竑たまひしかを我ろに時ま
たアロンのために祈れりニ斯スカて我あんぢらアラグ作りて罪ミムを犯キムし
犧コシを取り火ヒをもて之ミを焼きこれを搗ハツきこれを善く打碎ハタケルきて細スモク
塵チリとあしろうの塵チリを山より流ハラフき下トクダるところの溪ハヤシ流ハラフふ投棄ハサフたりニ汝タマ
らはタベラマッサおよびキブロテハタクふおいてもまたエホ
バを怒らせたりニまたエホバカデシバルチアより汝タマらを遣ハサフさん
とせし時ヒメ言ハシムたまひけるハ汝タマら上アゲルりゆきて我タマグふんぢらに與ハカルふる
地チを獲ハセルて産業サンガとせよと然ハナカるふ汝タマらの神カミエホバの命メイふ悖ハキり
を信ムスルせずまたろの言ハシマセを聽ハシムさりき吾タマ我タマグ汝タマらを識ハカルし日ヒより
らひ常にエホバふ悖ハキりしあり五ゴかの時タメエホバ汝タマらを滅ゼロフさんと以來汝タマらを遣ハサフさん
たまひしに因ハシムて我タマ最初ハジメふ悖ハキりしあり五ゴかの時タメエホバ汝タマらを滅ゼロフさんと以來汝タマらを遣ハサフさん
伏ハシムし三ミエホバに祈ハシムりて言ハシマセるハ主シテエホバよ汝タマらの大カある權チカラ能ハセを

わグ彼らに命ぜし道を離れて自己のためふ偶像を鑄造れりと
エホバまた我に言たまひけるは我のみの民を觀たり視よ是は項比
強き民あり古我を阻むるなけれ我かれらを滅ぼしろの名を天グ
下より抹されし蓋是に於て我身をして彼らよりも強くまた大
べし蓋是の契約の板二枚へわが兩手を下りけるが山は火にて燒
る又ろの神エホバふむかひて罪みを犯しきは斯て我觀しふ汝
をる又ろの神エホバの汝らに命じたまひし道を離をたりしか
られろの二枚の板をとりてわが兩手よりみ色を擲ち汝らの目
て早くもエホバの汝らに命じたまひし道を離をたりしか
るの二枚の板をとりてわが兩手よりみ色を擲ち汝らの目
ふみを碎り大而食はず水も飲まざりき是く四十日四十夜
ふき事をあこなひ之を怒せて大に罪を獲たればありま
憤恨をあこし汝らを怒りて滅ぼさんと志たまひしかを
怒りを發し事をあこなひ之を怒せて大に罪を獲たればありま
わグ彼らに命ぜし道を離れて自己のためふ偶像を鑄造れりと
エホバまた我に言たまひけるは我のみの民を觀たり視よ是は項比
強き民あり古我を阻むるなけれ我かれらを滅ぼしろの名を天グ
下より抹されし蓋是に於て我身をして彼らよりも強くまた大
べし蓋是の契約の板二枚へわが兩手を下りけるが山は火にて燒
る又ろの神エホバふむかひて罪みを犯しきは斯て我觀しふ汝
をる又ろの神エホバの汝らに命じたまひし道を離をたりしか
られろの二枚の板をとりてわが兩手よりみ色を擲ち汝らの目
て早くもエホバの汝らに命じたまひし道を離をたりしか
るの二枚の板をとりてわが兩手よりみ色を擲ち汝らの目
ふみを碎り大而食はず水も飲まざりき是く四十日四十夜
ふき事をあこなひ之を怒せて大に罪を獲たればありま
憤恨をあこし汝らを怒りて滅ぼさんと志たまひしかを

たるうの十誡を前に書したるごとくうの板に書し而してエホバ
てきを我われふ授けたまへり五是に於て我身を轉らして山より下り
うの板を我われ造りしかの置に藏めたり今あはろの中にあるエホバ
バの我われ命じたまへる如し六斯てイスラエル子孫はヤカシ人
の井より出たちモセラにいた色りアロン其處に死て其處に葬
らきうの子エレアザルふ乞に代りて祭司となきりセまた其處に葬
り出たちモセラにいた色りアロン其處に死て其處に葬
たきりみの子エレアザルふ乞に代りて祭司となきりセまた其處に葬
区分てエホバは契約の置は水の流ながれ多かりキハカの時エホバ
しめ又エホバの名をもてレビはうの祝を昇亥めエホバの前エホバ
いたる是をもてエホバの業をもてレビはうの神エホバの兄弟等の事を爲
たり汝の神エホバは彼居に居しダニエル等の事を爲さにせたまへり
四十日はち四十夜や山に山に言ひたまへるまたまた其事を爲さにせたま
は前ひ數の日ひ四十日はち四十夜や山に山に言ひたまへるまたまた其事を爲
惟エホバは前ひ數の日ひ四十日はち四十夜や山に山に言ひたまへるまたまた其事を爲
は前ひ數の日ひ四十日はち四十夜や山に山に言ひたまへるまたまた其事を爲

また我お聽たまへりエホバ汝を滅すことを好みたまはさりき
 斯てエホバ我に言たまひけるを汝起あめり民ふ先だちて進み行
 き彼らをして我の之ふ興へんとろの先祖に誓ひたる地に入てこ
 れを獲せしめよ主イスラエルよ今汝の神エホバの汝ふ要めたま
 ふ事は何ぞや惟是のみ即ち汝の神エホバの神エホバを畏るの一切
 道歩み之を愛し心を盡し精神を盡して汝の神エホバを畏るの
 又我ク今日汝らふ命するエホバに屬す主夫天と諸天の天より
 神を得るの事はみ旨夫天と諸天の天より汝の神エホバに事へ
 皆汝の神エホバに属す主然るにエホバたゞ汝の先祖等を悦びて
 へり今日のごとし矣然を汝ら心に割禮を行へ重て項を強くする
 勿れ主汝の神エホバは神の神主の大にしてかく權能ある畏る者
 べき神にましまし人を偏り視すまた賄賂を受す夫孤兒と寡婦の
 びて之を愛しろば後の子孫たる汝らを萬の民の中より選びたま
 申命記第十一章四節

ために審判を行ひまた旅客を愛してこそに食物と衣服を與へた
 まふ先汝ら旅客を愛すべし其は汝らもエジプトの國ふ旅客たり
 し事あれをなり主汝の神エホバを畏れ之に事へこれふ附従おひ
 ろの名を指て誓ふことをすべしニ彼は汝の讀べき者また汝の神
 にして汝が目に見たる此等の大なる畏るべき事業をなしたまへ
 り主汝の先祖等は僅か七十人にてエジプトふ下りたりしふ今汝の神
 の神エホバ汝をして天空の星のごとくに多くなる職守と法度と律法と
 大ある事とろの強き手とろの伸たる腕とを知り主汝らの神エホバを愛
 す惟汝らふ言ふ汝らは今日すでふ汝らの子女は知らずまた見ざきを我
 誠命とを守るべしニ汝らの神エホバを愛志常にろの職守と法度と
 ブトの中においてエジプト王パロとろの全国ふむかひておてな
 ひたまひし徵と行爲とを知り四またエホバダエジプトの軍勢

とろの馬とろの車とに爲たまひし事すみいち彼らグ汝らの後を追きたれる時に紅海の水を彼らの土ふ覆ひからまら玄め之を滅ぼして今日まで曠野に於て汝らふ爲たまひし事を知り五また此處にいたるまで曠野に於て汝らふ爲たまひし事を等を知り六また汝のルべンの子孫あるエリアブの子等ダタンとアビラムふ爲たまひし事するハチイスラエルの全家の眞中ふかいて地ろの口を開きて彼らと汝は家族とろの天幕とろの足下ふ立つ者とを呑つて彼らを知るハチ汝らはエホバの行ひたまひし此諸の大なる作爲を目めふ観たり八然を汝ら我今日汝らに命ずる誠命を盡く守るべし然せば汝らハ強くなり汝らグ濟りゆきて獲んとする地にいたて之を獲てを得れまたエホバが汝らと汝らの後の子孫ふあたりへんと汝らの先祖等に誓たまひし地乳と蜜とけ流るゝ國において汝らの日を長うするを得んナ汝らグ進みいりて獲んとす

る地は汝らが出来りしエジプトの地のごとくならず彼處ふては汝ら種を播き足をもて之ふ灌漑げりるの狀蔬菜園にあけるが如きに在者に志て年の始より年終まで汝の神ニホバは汝らの神エホバを愛し心を盡くし精神を盡かんちらに命ずる吾命令を善守りて之に事へふ隨ひて降り汝らを志してろの穀物を收入れしめ且酒と油とを獲せ志め十五また汝は汝の神エホバに事へて天を開たまひ雨ふらず地物を生ぜず心迷ひ翻へりて他の神々に事へて天を開たまひ死んで地より速かに滅亡するに至らん汝らにむかひて怒を發して天を閉たまひ汝に賜せる美地より汝らのエホバに賜せる

得る人あらヒ汝らヒ神エホバ汝らガ踏ゐるとふろの地の人々を
玄て汝らを怖ぢ汝らを畏き玄めたまふこと其嘗て汝らに言たま
ひし如くあらん云觀よ我今日汝らの前に祝福と呪詛とを置くモ
汝らもし我グ今日あんぢらふ命ずる汝らの神エホバの誠命に遵
ハシ祝福を得んニ汝らもし汝らヒ神エホバの誠命ふ遵之す翻へ
りて我グ今日あんぢらに命ずる道を離キ素知さりし他の神々に
従ダヒナベ呪詛を蒙ラニ汝の神エホバ汝グ往て獲んとする地
ふ汝を導きいりたまふ時ハ汝ケリシム山に祝福を置キエバル山
に呪詛をあくべしニテの二山ハヨルダンの彼旁アラバに住るカ
ナン人の地にあいて日の出る方の道の後にありギルガルふ對ひ
テモレの橡樹と相去て遠ラざるにあらずやニ汝らはヨルダン
を濟り汝らの神エホバの汝らに賜ふ地ふ進ミイリて之を獲んと
す必ずこれを獲て其處に住むとを得ん三然を我グ今日なんぢら

に授くるところの法度と律法を汝らことぐく守りて行ふべし

第十二章

一 是れ汝の先祖等の神エホバの汝に與へて獲させたまふところの地ふもいて汝らダ世に生存する日の間常に守り行ふべき法度と律法とありニ汝らダ逐之らふ國々の民ダろの神々ふ

事之を盡く毀ち三ろの壇を毀ちろの柱を碎きろヒアシラ像を火にて焼きまたろの神々の雕像を砍倒して之の名をろの處より絶去べし四但し汝らの神エホバに之汝ら是のごとく爲べからず五汝らの神エホバの名を置んとて汝らの支派の中より擇ひたまふ處あるエホバの住居を汝ら尋ね求めて其處ふいたり六汝らの燔祭と犧牲汝らの什一と汝らの手の舉祭汝らの願還と自意の禮物および汝らの牛羊の首出等を汝ら其處に携へ詣りセ其處にて汝らの神エホバの前ふ食をなし又汝らと汝らの家族皆ろの手を

勞して獲たる物をもて快樂を取べし是あんぢの神エホバの祝福ふよりて獲たるものあをゑありハ汝ら彼處にてハ我らダ今日此ふ爲ごとく各々うの目に善と見ところを爲べからず汝らハまだ汝らは神エホバの賜ふ安息と産業にいたらさるなりナと汝らヨルダンを渡り汝らの神エホバの汝らに與へて獲させたまふ地に住にいたらん時またエホバ汝らの周圍の敵を除き汝らに安息を賜ひて汝等安泰ふ住ふにいたらん時之汝らに與へて獲させたまふ地に住にいたらん時またエホバ汝らの神エホバの汝らの名を置んために一の處を選びたまひん汝ら其處ふ我ダ命エホバの名を都て携へゆくべし即ち汝らの燔祭と犧牲と汝らの神エホバの汝らの手の舉祭および汝らダエホバに誓願をたてテユ獻んと汝らの神エホバの汝らの手を携へいたるべしナ汝らの男子女子子供と汝らの神エホバの汝らの中間に分なく産業あるきをるレビ人とも然すべし其れ是れ汝らの中間に樂むべしまた汝らの門の内に

の前ふ快樂を取べし十九汝慎め汝ダ世に生存する日は間レビ人を
棄る勿れニテ汝の神エ水バ汝ふ言しごとくに汝の境界を廣くした
まふに及び汝心に肉を食ふてとを欲して言ん我肉を食へんと然
る時れ汝すべてろの心ふ好み肉を食ふてとを得べし三もし汝の
神ニホバのろの名を置んとて擇びたまへる處汝と離るゝと遠
のらバ我ガ汝ふ命せし如く汝ろのエホバふ賜へる牛羊を宰り
汝の門の内ふて凡てろの心に好み者を食ふべし三牡鹿と羚羊を
食ふダとく汝これを食ふてとを得るあり三唯堅く慎みてる者も潔き者も均く
みれを食く汝の生命あれをあり汝ろの生命を肉とどもふ食ふべからず
れこれダ生いのち命を食ふ勿れ水のおとくふこれを地に灌ぐべし三五汝血を
後のもとの子を孫とに福社あらん二六唯汝の善と觀たまふ事を爲バ汝の身と汝の
物と之

者あれバあり十三汝慎め凡て汝グ自ら擇ふ處にて燔祭を獻ること
をする勿れ西唯汝らの支派の一の中ニエホバの選びたま之んろ
の處ふ於て汝燔祭を獻げまた我グ汝に命する一切の事を爲べし
立彼處にて之汝の神エホバの汝にたまふ祝福に循ひて汝ろヒ心
ふ好む獸畜を汝の門の内に殺してろヒ肉を食ふを得即ち汚
きたる人も潔き人もこ色を食ふを得如しあよビ水はとくにみれを地に灌ぐ
し矣但しろの血ハ食ふべからず水はとくにみれを地に灌ぐ
汝グ立し誓願を還すためヒ禮物と汝ヒ牛羊の首出あらびに
ベシ七汝の穀物と酒と油の什一あよビ汝ヒ牛羊の手
如しあよビ汝ヒ牛羊の首出あらびに
汝の舉祭の品ハ汝これを汝の門の内に食ふべからず汝の神エホバ
バの選ひたまふ處ふれいて汝の神エホバの前ニ汝これ
し即ち汝の男子女子僕婢れよび汝ヒ門の内もにをるレヒ人ども
ふ之を食ひ汝の手を勞して獲たる一切の物をもて汝の神エホバ

これをエホバの擇びたまふ處に携へゆくべしモ汝燔祭を獻る時
れろの肉と血を汝の神エホバの壇に供ふべくまた犧牲を獻る時
れろの血を汝は神ニホバの壇の上に灌ぎろの肉を食ふべし云わ
グ汝も命する是等の言を汝聽て守れ汝のく汝の神エホバの善と
觀正と觀たまふ事を爲む汝と汝の後の子孫に永く福祉あらん元
汝の神エホバ汝の往て逐へらはんとする國々の民を汝は前より
絶去たまひて汝つひふるの國々を獲て汝は地に住にいたらん時
汝エホバ汝みづのら慎め彼らが汝の前ふ亡びたる後汝のれらに儆ひ
て罟にのる勿れまた彼らの神を尋求めては國々の民は如何み
る様にて汝の神々ふ事へたるの我もろの如くにせんと言ことあ
れ三汝の神エホバに向ひてハ汝然す可らず彼らエホバの忌み
のつ憎みたまふ諸の事をろの神にむのひて爲しろの男子女子を
さへ火にて焚てろの神々に獻げたり三我が汝らに命ずるこの一
切の言をあんちら守りて行ふべし汝こそを増なかをまた之を減
すあかれ

開篇 一汝らの中に預言者あるひれ夢者興りて徵證と奇蹟を
汝に見志ニ汝に告て我らハ今より汝と我とグ是まで識きりし他
の神々に従ひて之に事へんと言ことあらんにろの徵證または
奇蹟これお言ひとく成とも三汝ろの預言者または夢者の言に聽き
あたダグふ勿色其は汝等の神エホバを愛するや否やを知んとて斯あん
汝らの神エホバを守りうの言に遵ひ之ふ事へこれに附従グふべし
汝の誠命を守りうの言に背かせんとし汝の神エホバの汝ふ歩めと命ぜし道より汝を誘

ひ出さんとして語るふ因てあり汝斯して汝の中より惡を除き去
べし。六汝の母の生る汝の兄弟または汝の男子女子または汝の懷
の妻また汝と身命を共にする汝の友潛に汝を誘ひて言ふ
汝も汝の先祖等も識ざりし他の神々ふ我ら往て事へん。セ即まはちん
汝の周圍ふある國々の神比或い汝ふ近く或い汝ふ遠く志て地の
此極より地比彼極までに鎮り坐る者に我ら事へんと斯言ふ。乙とあ
るどもハ汝これふ從ふ勿れ之に聽ふかれ之を惜み視る勿れ之を殺る
憐むなかれ之を庇ひ匿す勿れ之に手を下し然る後に民みあ手を下す
エシブトの國奴隸比家より汝を導き出立まひし汝の神エホバ
すふハ汝まづ之に尋ね探り善問へし若ろ比事眞にろの言確にし
行はきらん。サ汝聞ふ汝の神エホバの汝ふ與へて住しめたまへる
より汝を誘ひ離さんと求めたれバ汝石をもて之を擊殺すべし。サ
然せばイスラエルみな聞いて懼れ重ねて斯る惡もしき事を汝らの中に
おこなはせば。エホバの汝もし汝の神エホバの言を聽き
汝の邑の一にナ邪僻なる人々興り我らハ今まで識ざりし他の神
ドふ往て事へんと言てろの邑に住む人を誘ひ惑はしたりと言ふ
斯る憎むべき事を尋ね探り善問へし若ろ比事眞にろの言確にし
らを十四汝これを尋ね探り善問へし若ろ比事眞にろの言確にし
獲たる掠取り物を刃にかけて撃ころしろの邑に行はれたらを生汝
一切の掠取り物を刃にかけて撃ころすべし。またろの中にも居る一
荒邱とありて再び建ふはさるゝこと無るべきあふ供ふべし。斯る
詛られし物を少許も汝の手に附ふく焚て汝の神エホバふもてろの
き怒を静め汝ふ慈悲を加へて汝を憐れみ汝もし汝の神エホバの
我わグ今日ふあんちに命ずるるの一切の誠命を守り汝の神エホバの
とく汝の敵を衆く玄たまへん。ナ汝もし汝の神エホバの言を聽き
の邑の者よりあふ

ひ出さんとして語るふ因てあり汝斯して汝の中より惡を除き去
べし。六汝の母の生る汝の兄弟または汝の男子女子または汝の懷
の妻また汝と身命を共にする汝の友潛に汝を誘ひて言ふ
汝も汝の先祖等も識ざりし他の神々ふ我ら往て事へん。セ即まはちん
汝の周圍ふある國々の神比或い汝ふ近く或い汝ふ遠く志て地の
此極より地比彼極までに鎮り坐る者に我ら事へんと斯言ふ。乙とあ
るどもハ汝これふ從ふ勿れ之に聽ふかれ之を惜み視る勿れ之を殺る
憐むなかれ之を庇ひ匿す勿れ之に手を下し然る後に民みあ手を下す
エシブトの國奴隸比家より汝を導き出立まひし汝の神エホバ
すふハ汝まづ之に尋ね探り善問へし若ろ比事眞にろの言確にし
行はきらん。サ汝聞ふ汝の神エホバの汝ふ與へて住しめたまへる
より汝を誘ひ離さんと求めたれバ汝石をもて之を擊殺すべし。サ
然せばイスラエルみな聞いて懼れ重ねて斯る惡もしき事を汝らの中に
おこなはせば。エホバの汝もし汝の神エホバの言を聽き
汝の邑の一にナ邪僻なる人々興り我らハ今まで識ざりし他の神
ドふ往て事へんと言てろの邑に住む人を誘ひ惑はしたりと言ふ
斯る憎むべき事を尋ね探り善問へし若ろ比事眞にろの言確にし
獲たる掠取り物を刃にかけて撃ころしろの邑に行はれたらを生汝
一切の掠取り物を刃にかけて撃ころすべし。またろの中にも居る一
荒邱とありて再び建ふはさるゝこと無るべきあふ供ふべし。斯る
詛られし物を少許も汝の手に附ふく焚て汝の神エホバふもてろの
エホバの言を聽き
の邑の者よりあふ

善と觀たまふ事を行ひ是のごとくあるべし
 に己ダ身ふ傷くべからずまた己の目之間
 からすニ其の汝の神エホバの子等あり汝ら死る者れため
 面の諸の民の中より汝を擇びて己は寶の民とあし給へり三汝穢
 いしき物の何をも食ふ勿れ曰汝らグ食ふべき畜は是あり即ち
 牛羊山羊五牡鹿、羚羊、小鹿、犧、麋、麋、鹿、ゐ迄六凡て獸畜の中蹄
 獸者と蹄の分を割て二つに蹄を成る反獸獸は中汝らの食ふべきを食ふべきを
 あよび山鼠是らハ反獸せも蹄足りきを汝ら之を食ふべきを汝らに付せ
 れたる者ありハまた豚是ハ蹄わかられせも反獸てことをせざきを
 汝らに付せたる者あり汝ら是等の物の肉を食ふべきを汝らに付せ
 の死體ふ捫るべからず水にをる諸の物の中是のごとき者を汝
 類十五鶲鳥、梟、鷗、雀、鷹の類皆汝ら之を食ふべきを汝らに付せ
 はよび蝠蝠また凡て深き鳥の類皆汝ら之を食ふべきを汝らに付せ
 る者なり汝ら之を食ふべきを汝らに付せ
 からず汝の門の内にをる他國の人々に之を與へて食ふべきを汝らに付せ
 羊羔をうの母の乳にて煮べからず三汝の神エホバの聖民なきばあり汝ら食ふべきを汝
 蒔て獲てころの產物の什一を取べし三而して汝の神エホバの聖民なきばあり汝ら食ふべきを汝
 すあひちエホバのうの名を置んとて擇びたまへん處にあいて汝

ら食ふべし即ち凡て翅と鱗のある者ハ皆汝ら之を食ふべきを汝らに付せ
 て翅と鱗のあらざる者ハ皆汝ら之を食ふべきを汝らに付せ
 是等の食ふべきを汝らに付せ
 濠き物の汝らみれを食ふべきを汝らに付せ
 からず即ち鶴、黃鷺、鳶十三鶴、鷺、黑鷺の類十四各種の鶴
 からず汝の門の内にをる他國の人々に之を與へて食ふべきを汝らに付せ
 はよび蝠蝠また凡て羽翼ありて翎ところの者ハ汝らに付せ
 からず三汝の神エホバの聖民なきばあり汝ら食ふべきを汝
 蒔て獲てころの產物の什一を取べし三而して汝の神エホバの聖民なきばあり汝ら食ふべきを汝
 すあひちエホバのうの名を置んとて擇びたまへん處にあいて汝

第十四章
 一汝らハ汝等の神エホバの子等あり汝ら死る者れため
 に己ダ身ふ傷くべからずまた己の目之間ふあたる頂の髪を剃べ
 からすニ其の汝の神エホバの子等あり汝ら死る者れため
 面の諸の民の中より汝を擇びて己は寶の民とあし給へり三汝穢
 いしき物の何をも食ふ勿れ曰汝らグ食ふべき畜は是あり即ち
 牛羊山羊五牡鹿、羚羊、小鹿、犧、麋、麋、鹿、ゐ迄六凡て獸畜の中蹄
 獸者と蹄の分を割て二つに蹄を成る反獸獸は中汝らの食ふべきを食ふべきを
 あよび山鼠是らハ反獸せも蹄足りきを汝ら之を食ふべきを汝らに付せ
 れたる者ありハまた豚是ハ蹄わかられせも反獸てことをせざきを
 汝らに付せたる者あり汝ら是等の物の肉を食ふべきを汝らに付せ
 の死體ふ捫るべからず水にをる諸の物の中是のごとき者を汝

爲とてろの諸の事にあひて汝に福祉を賜ふべし
七年の終ふ至るごとに汝放釋を行ふべしニ
例とは是のごとし凡てうの鄰ふ貸ことを爲し
べしろは鄰またうの兄弟にてれを督促へからず
放釋と稱へらるればありニ異國の人ふれ汝
されど汝は兄弟に貸たる物れ汝の手よりて
を汝らの中間に貧者あからん其れ汝の神エホ
産業とあざゑめたまふ地において大に汝を
あり五只汝もし謹みて汝の神エホバの言ふ
あんちに命するこの誠命を盡く守り行ふに於て
るべし六汝は神エホバ汝に言しごとく汝を
汝れ衆多の國人ふ貸ことを得べし然ど借
るべし六汝は神エホバ汝に言しごとく汝を
汝れ衆多の國人ふ貸ことを得べし然ど借

ブルれ男またハヘブルの女汝の許ふ賣れたらんふ若六年あんぢ
ふ事へたらバ第7年に汝あれを放ちて去るムベシ。汝これを放
ちて去るムベからず。汝の群と禾場と檜
場の中より贈物を取て之ダ肩に負すべし。即ち汝の神ニ水バの汝
を祝福て賜ふとてろの物をこ色ふ與ふべし。五汝記憶べし汝ハエ
シプロトの國ふ奴隸たりしが汝の神エホバ。汝を順ひ出したまへり
是故ふ我今日ては事を汝に命す。夫ろの人もし汝と汝の家を愛し
汝と偕にをるを善とし。彼は耳を戸ふ刺と曰すべし。然せを彼ハ永く汝
の僕たるべし汝比婢にもまた是のごとくすべし。汝を離れて去を好まず
て去るムベ難かき事と見るべからず。其ハ彼ダ六年汝に事へて勤
きしハ工價を取る傭人の二倍に當れバあり汝斯あさを汝の神エホ
バ汝の凡て爲どあろの事に於て汝をめぐみたまふべし。○丸汝

前に逾越節をあすべし。三醡いきたるパンを之とともに食ふべからず。七日の間酡いきぬパン即ち憂患のパンを之とともに食ふべし。其れ汝エシプロトの國より出る時ハ急にて出たをなり斯ム。來し日を誌ゆべし。ヨウの七日間恒に汝グエシプロトの國より出る時ハ急にて出たをなり斯ム。汝の見ること有志ムベシ。ヨウの七日間恒に汝グエシプロトの國より出る時ハ急にて出たをなり斯ム。汝の肉を翌朝まで存し。おらす又あんぢタグ初の日。汝の神エホバの汝に賜ふ。汝の門の内にて逾越牲畜を宰る。五汝の神エホバの汝に賜ふ。汝の名を置んとて選びたる時刻ふ逾越の牲畜を宰る。六惟汝の神エホバの汝に賜ふ。エホバのろの名を置んとて選びたる時刻ふ逾越の牲畜を宰る。五汝の神エホバの汝に賜ふ。頃汝グエシプロトより出たる時刻ふ逾越の牲畜を宰る。六惟汝の神エホバの汝に賜ふ。汝の天幕に歸り往くべし。八汝六日の間酡いれぬパンを食ひ朝におよびて汝の神エホバの選びたる時刻ふ逾越の牲畜を宰る。七而しあづかひに開くべし。何の職業をも爲べか。

は牛羊の産る初子へ皆みれを聖別て汝は神エホバに歸せしむべ
し汝の牛の初子をもちゐて何は工作をも爲べらす又汝の羊の
初子の毛を剪べからずニ汝の神ホバの選びたまへる處にてエ
ホバの前に汝と汝は家族年々に乙食を食ふべし二然そろの畜も
し疵ある者するいち跛足盲目あるふと凡て惡き疵ある者なる時
れ汝の神エホバふあれを宰りて獻べからず三汝の門の内ふ
鹿と羚羊のとしあ但しろの血れあれを食ふべからず水のごと
くにこれを地に灌ぐべし
トより尊き出しだまひたきをありニ汝すみれちエホバのうの名
行なへ其はアビブの月ふ於て汝の神エホバ夜の間ふ汝をエシブ
を置んとて擇びたまふ處にて羊ひよび牛を宰り汝の神エホバの
第十一章

らす○九汝また七七日を司ふべし即ち穀物に録をいれ初る時よりしてろの七七日を計へ始むべきありナ而して汝は神エホバの前に七週の節筵を行なひ汝の神エホバの汝を祝福たまふ所に在たダヒ汝の力に應じてろの心ふ願ふ禮物を獻ぐべしニ斯志て汝と汝の男子女子妻子僕婢よりび汝の門の内に居るレビ人ならびに汝らの中間にをる賓旅と孤子と寡婦みどもに汝は神エホバのろの名を置んとて選びたまふ處ふて汝の神エホバの前ふ樂むべし古汝の昔エシプロトに奴隸たりしてとを誌え是等の法度を守り行ふべし○十三汝禾場と櫛場の物を收藏たる時七日之間結茅節を汝の門の内あるレビ人賓旅孤子寡婦なぞ皆どもふ樂むべしエホバの選びたまふ處にて汝七日は間あんちの神エホバの前ふ節筵をなすべし汝の神エホバ汝の諸の產物と汝が手の諸の工作と

る事無くまたこの誠命を離れて右ふも左にもまがる事無し
ての子女どもふるの國ふおいてイスラエルの中にもろの日を
永うする事を得ん
第一祭司たるレビ人あよびレビの支派は都てイスラエル
の中にもろの産業の物をダムにヨダルムにヨダルムにヨダルム
の神エホバ汝の諸の名をモロウの支派は都てイスラエル
の全地にて此のと凡て之弟弟エホバの火祭の品と
の立ち中毛骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨骨
中より初を牲言中間パの産業を有ヒシエホバの火祭の品と
何事め彼を祭を獻をタマヒシヨウヒシヨウヒシヨウヒシヨウヒシヨウ
の處をあさひ出にあたふべし四また汝司レバダムにヨ
居る者に申めたまへをあり其子孫の穀を

ふれ汝の神エホバ然する事を許したまはず汝の神エホバ汝の
中汝の兄弟の中より我のごとき一箇の預言者を汝のために興^ス
たまへん汝ら之に聽てとをすべし是ま内たく汝の集會の日ふ
ホレブふれいて汝の神エホバふ求めたる所あり即ち汝言けらく
我を玄て重てこの我神エホバの聲を聞玄むる勿れまた重てふの
大ある火を見さする勿れ恐くは我死んと是ふれにてエホバ我
に言たまひけるに彼らの言る所^ニ善し^ニ我かれら兄弟^ニ中より
汝のごとき一箇の預言者を彼らのためふ興し我言をろの口に授^ス
けん我^ハ彼に命ずる言を彼ことく彼方に告べし凡て彼^の口に授^ス
吾名をもて語れと命ぜざる言を吾名をもて縱肆^スされを罰^ス
せん^ニ但し預言者もし我の語れと命ぜざることを爲すあらをろに預^ス
に語りまた他^の神々の名をもて語れと命ぜざることを爲してろの言^ニ

のエホバの言たまふ者ふあらざるを知んと三然ば若し預言者わ
りてエホバの名をもて語ることをなすふろの言就すまた效あら
ざる時は是エホバの語りまたふ言ふあらすしてろの預言者の縦
肆に語るとふろふり汝ろの預言者畏るよに及をす
隣人に語るとふろふり汝ろの預言者畏るよに及をす
ふ斧を執て木を研んと擊あるす時にろの頭の鉄柯より脱てろの
隣人ふあたりて之を死なめたるグ如き是あり斯る人へ是等の邑
比一に逃れて生命を全うすべし六恐く復仇する者心熱志てろの
殺人者を追かけ道路長きにあいて遂ふ追乞て之を殺さるべき
理あらざるありセ是をもて我ふんちふ命じて三の邑を汝のため
の境界を廣め汝の先祖等ふ與へんと言ひし地を盡く汝ふ賜ふにい
たらん時即ち汝我ダ今ふるんちふ命ずるては一切の誠命を守も
りてこきを行ふひ汝の神エホバを愛し恒ふろは道ふ歩まん時へ
この三の外にまた三の邑を増加ふべ玄十是汝の神エホバは汝にい
與へて産業とあさゑめたまふ地に辜ふき者の血を流すみと無ら
んためあり斯せずろの血汝ふ歸せんナ然せもし人ろの隣人を

第十九章 一汝の神エホバこの國々の民を滅し絶ち汝の神エホバ
これの地を汝に賜ふて汝つひにあれを獲るの邑々とろの家々に
住にいたる時りニ汝の神ニホバの汝に與へて区別べし三而して汝こゑふ道
まふ地の中に三の邑を汝けためふ區別べし三而して汝こゑふ道
路を闢きまた汝の神エホバの汝ふ與へて産業とあさゑめたまふ
地の全體を三の區に分ち凡て人を殺せる者の彼處ふ逃れて生
むべし四人を殺せる者の彼處ふ逃れて生の命を全うすべき事
れは是のごと玄即ち凡て素より惡むことも無く知らずしてろの隣人
を殺せる者五例バ人木を伐んとてろの鄰人とともふ林に入り手

惡みて之を附覗ひ起かより擊てろの生命を傷ひて之を死なめ而
してふは邑の一ふ逃れたる事あらむさうは邑の長老等人を遣て
之を其處より曳きたら志め復仇者の手に之を付志て殺さ志む
べし。汝か乞を憫み觀るべからず。奉み者のかの血を流せる咎をイ
スラエルより除くべし。然せを汝に福祉あらん○古汝の神エホバ
の汝に與へて獲させたまふ地の中に志いて汝グ嗣ぐとてろは產
業ふ汝は先人の定めたる汝は鄰地界を侵すべからず。且何の悪
ふもあざ凡てろの犯すとてろの罪は只一人の證人に由りて定む
べからず二人の證人の口によりたまは三人は証人の口によりて定む
るの事を定むべし。もし僞妄の證人起りて某の人は証人の口によりて定む
りと言ひたれど有心者もろは相争ふ。ふたりの者エホバの前に至り
當時は祭司と士師の前ふ立べし。然る時士師詳細にこれを調べ
観るふろの証人もし僞妄の証人にしてろの兄弟にむかひて虚偽
の事をあせり。

の証をあしたる者なる時ハ汝兄弟に彼ダ蒙らさんと謀る所
を彼ふ蒙らし斯して汝らの中より悪事を除くべし。然せをろの
遺れる者等聞て畏れろの後かさねて斯る惡き事を汝らの中にな
てなはじ。汝憫み視ることをそべからず。生命の命眼の眼歯の
齒手の手足の足をもて償は志むべし。
第二十章 汝ろは敵と戰ひんとて出るに當り馬と車を見また汝よ
りも數多き民を見るもこれに懼る勿乞其の汝をエジプトより
に臨む時ハ祭司進みいで民に告てミ之に言べシイスラエルよ聽き
け汝らハ今日なんぢらの敵と戰ひんとて進み來れり。心に臆する
勿れ懼る。汝ハ今カレ倉皇なけれ彼らに怖る。あか乞。其の汝らは神を
エホバ汝ハともに行き汝らのためには汝らは敵と戰ひて。ニ之に當り馬と車ハ
救ひたまふ。必ければありと五斂てまた有司等民に告げて言べし誰

こきを攻べし^サ而して汝の神エホバ^ハあれを汝の手に付したまふ
に至ら^セ刃をもてろの中^ヒ男を盡く^セ擊殺す^{ベシ}吉惟^ナの婦女嬰を
孩畜^{カチ}あよび凡て^モの邑^モの中^ヒにて汝が奪ひ^セ獲たる物^ハ盡く^セ己^ハに賜
ふ者なれを汝こきをもて樂む^{ベシ}汝を離る^ミこととの遠き邑々に賜
す^モい^テ是等^モ國々^ハふ屬せざるところの邑々に^モ呼喚する者^ハを一人も生し存
とく行ふ^{ベシ}但し汝の神エホバ^ハ汝に與へて産業^ハとみさ^ム吉
めたまふ^セ國々^ハの邑々ふ^ニあいてり呼喚する者^ハを一人も生し存
べらすも即ち人アモリ人カナン人ベリシ人ヒビ人エブス
人あそひ汝かあらすふれを滅ぼし盡^セ矣て汝は神エホバ^ハ汝に命
じたまへる如くすべし^スする^ハ彼らが^モの神々ふむうひて行
ふところの憎むべき事を汝らふ歎へて之を儆ひあらて^シあめ汝
らをあて汝らの神エホバ^ハに罪を獲せ^セ玄むる事のあからんためあ

か新玄^{アガラ}家^ハを建て之に移らざる者あるかろの人^ハ家^ハふ歸りゆく
べし恐く^ハ自己戰門^ハに死て他の人^ハこれに移らん^六誰^カ墓物園^ハを
作りてろ^ハ果^ハを食はざる者あるかろ^ハ人^ハ家^ハふ歸りゆく^{ベシ}恐
く^ハ自己戰門^ハに死て他の人^ハこれを食はん^セ誰^カ女^ハと契りて之を
娶^メらざる者あるかろ^ハ人^ハ家^ハふ歸りゆく^{ベシ}恐く^ハ自己戰門^ハに
死^タて他^ハ人^ハ心^ヒに臆^シする者あるかろ^ハ人^ハ家^ハふ歸りゆく^{ベシ}恐く^ハ
か懼^ギれて心^ヒに臆^シする者あるかろ^ハ人^ハ家^ハふ歸りゆく^{ベシ}恐く^ハ
の兄弟たちの心^ヒこれ^ハ心^ヒの^モどく挫^ケんと^九有司等^ハかく民^ハに
告ぐる^ハとを終たら^ハ軍勢の長等^ハを立て民^ハを率^ム玄^ムひ^{ベシ}汝^アある
邑^モに進みゆきて之^ハを攻んとする時^ハ先^ハ民^ハに平^タ穩^ムに降る^ハとを
勧^ム其處^モある民^ハを玄^ム都^ハて汝^ハ貢^ムを納^ム玄^ム汝^ハに事^ハへ玄^ムべし^サ汝^アある
もし平^タ穩^ム汝^ハに降ることを肯^ヘんぜずして汝^ハと戰か^ハんとせを汝

其處に進み來るべし彼らは汝の神エホバダ運びて已に事へ玄め
またエホバの名をもて祝することを爲玄めたまふ者にて一切の
詞訟と一切の争競あらそひれ彼らの口によりて決定するべきダ故ゆゑありハエホバ
頸くびを折たる牝牛めいぎゅうは上にあいて手を洗ひセ答へて言ベシ我らの谷にて
してろの人の殺ころされをりし處に最も近き邑の長老等ろの谷にて
この血ちを流さず我らの目めに見ざりしアリハエホバ
の贋あぶなひし汝の民みんイスラエルを赦ゆるしたまへふは率すつあるき者ものにて
せる罰ばつを汝の民みんイスラエルイ・ス・ラ・エ・ルを中なかふ降おとしたまふ勿むれと斯せせを彼ら
の血ちの罪つみを赦ゆるさん汝かくエホバは善よと觀みたまふ事ことを彼ら
の血ちを流せる咎がを汝らの中より除ぬくべしエホバよ汝
汝出て汝の敵てきと戰たたかふふわたり汝の神エホバを汝の手中うちより除ぬくべし
美しい女めのあるを見てふを悦えび取とて妻めぐみとふさんとせをナ汝は家いえに觀み

りナ汝久しう邑を圍かこみて之を攻取せめらんとする時にあいても斧のこを振ふ
ふて其處の樹きを砍枯かぶすべからず是れ汝の食くとあるべき者ものあり且かつ
ろは城しろ攻せめらふもいて田野の樹きあふ人のごとく汝の前に立ふさグら
んやニ但ただししがれを結むすぶる樹きと知しる樹きれこれを砍かり枯かし汝と戰たが
邑にむかひて之をもて雲梯くもていを築さきろの降おるまで之を攻せめらるも宜よし
若わし人殺ころされて野の作さきをるあらんふ之を殺ころせる者の誰だる
を知しさる時ときニ汝の長老等じやうろうとうと士師しじ等とう出できたりろの人の殺ころさ
れる處ところよりうの四周まわりの邑々までを度はかるべし三而あしてろの人の殺ころさ
だ輒くきを負おせて牽ひきるところの少すくなき牝牛めいぎゅうを取り日ひ邑の長老等じやうろうとうの未いまだ使つかはず未いま
牝牛めいぎゅうを耕うすふども種蒔たねまきふどもせざる流ながれつきせぬ谷たにふ牽ひゆきろの
谷たにふおいて牝牛めいぎゅうの頸くびを折ちべし玉たまの時とき祭司さいしたるレビの子こ孫そ等とう第廿一章

汝の神エホバは汝に與あへて獲えさせたまふ地ぢふもいて
谷たにふおいて牝牛めいぎゅうの頸くびを折ちべし玉たまの時とき祭司さいしたるレビの子こ孫そ等とう第廿一章

の中ふみを携へゆくべし而して彼はろは髪を剃り爪を截りまた俘虜の衣服を脱すて汝は家に居りろは父母のために一月のあひだ哀哭べし然る後あんち彼の處に入りてこきの夫とありこれを汝の妻とすべし古ろの後汝もし彼を好まずありあべ彼の心のまゝに去ゆかしむべし決して金のためにこきを賣べらす汝すでにこれを犯したきを之を嚴く待遇へからざるあり○五人二ひは妻ありてろの一人の愛する者一人の惡む者ならんにろの愛する者と惡む者の二人ともに男の子を生ありてろの長子もし汝の惡む婦は産る者ある時ひ古ろの子等に己の所有を嗣つる日には愛する者必すろの惡む者の産る子を長子となし己は所有を分け時にこれふり二倍を與ふべし是れ己の力の始にして長子のけんこれに屬すれをあり○六人にもし放肆にして背悖そむきる子ありろ

の父の言にも母の言にも順はず父母こきを責るも聽ことをせざる時に就きニ邑の長老たちに言へし我らの此子は放肆にいたり邑の長老等は死ふわたる罪を犯して死刑ふ遇ふとありて汝かれを木の上に留めくべらす必ずこきをうの日の中には埋むべし其は木ふ懸らるゝ者エホバふ詛はる者あれをあり斯するは汝の神エホバの汝に賜ふて産業とあさづて置べからず必ずこきを汝の兄弟に牽ゆきて歸すべしニ汝の

之此にありと斯いひてろの父母の比布を邑の長老等の前に展べ
し夫然る時そ邑の長老等の人に執へてこれを鞭ち丸又これに
銀百シケルを罰してろは女のに償えしむべし其そイスラエル
の處女に悪き名を負せたれをあり斯てろの人とみれを妻とすべ
し一生みれを去みとを得ずニ然どこの事もし眞にしてろの女の
處女ある証跡あらざる時之ニロの女をこ色お父の家の門ふ曳い
だしうの邑人人々石をもててこきを擊てろすべし其そ彼ろの父の
家ふて淫ある事をあしてイスラエルの中ふ悪をおふみひたれを
あり汝のく悪事を汝らの中より除くべし○三もし夫ふ適した婦と
寝る男あるを見ぞれは婦と寝たる男とろの婦とをともふ殺害ス
して惡事イヌラエルの中より除くべし○三もし夫ふ適した婦と
夫に適の約をあせる後ある男て邑に邑内に遇てこれを犯さを
二汝らの二人を邑の門に曳いだし石をもてみれを擊てろすべ
し夫然る時そ邑の長老等の人に執へてこれを鞭ち丸又これに
銀百シケルを罰してろは女のに償えしむべし其そイスラエル
の處女に悪き名を負せたれをあり斯てろの人とみれを妻とすべ
し一生みれを去みとを得ずニ然どこの事もし眞にしてろの女の
處女ある証跡あらざる時之ニロの女をこ色お父の家の門ふ曳い
だしうの邑人人々石をもててこきを擊てろすべし其そ彼ろの父の
家ふて淫ある事をあしてイスラエルの中ふ悪をおふみひたれを
あり汝のく悪事を汝らの中より除くべし○三もし夫ふ適した婦と
寝る男あるを見ぞれは婦と寝たる男とろの婦とをともふ殺害ス
して惡事イヌラエルの中より除くべし○三もし夫ふ適した婦と
夫に適の約をあせる後ある男て邑に邑内に遇てこれを犯さを

汝軍旅を出して汝の敵を攻る時も諸の悪き事を自ら謹べしナ
汝の中間ふもし夜中計すも汚穢ふれて身の潔のらざる人あら
バ陣營の外ふいづへし陣營の内ふ入べらす士而して薄暮に水
備へおき外ふ出て便する時そ其處ふ往べしニ汝陣營の外に一箇の
處を設けおき便する時そ其處ふ往べし士而して薄暮に水
敵を汝に付さんとて汝の陣營の中を歩きたまへをあり是をもて
汝の陣營を聖潔すべし然せを汝の陣營の中を歩きたまへをあり是をもて
そたまふてと有さるべし○十五ろの主人に汚穢物あるを見みて汝を離
僕をろの主人ふ交すべからず夫ろの者を志て汝に避て汝は許に逃きたる
もに居玄め汝の一の邑の中にて之び善と見て擇ふ處ふ住しむべ
し之を虐遇べからず○十七イスラエルの女子の中に娼妓あるべ

ホバの會に入べらすニ私子之エホバの會にいるべらす是之
十代までもエホバの會ふいるベからざるありミアンモン入およ
びモアブ人之エホバの會ふいる可らず彼ら之十代までも何時ま
でもエホバの會にいるベからざるあり四是汝らのエシブトより
出きたりし時に彼ら之パンと水とをもて汝らを途に迎へずメソ
ボタミアのベオル人ベオルの子パラムを情ひて汝を詛せんと
爲たをなり五然れども汝の神エホバの呪詛を變て汝のために祝福となしたま
す玄て汝の神エホバろの呪詛を變て汝のために祝福となしたま
も彼らのためふ平安をもまた福祿をも求むべからず○七汝エド
ヘリ是汝の神エホバ汝を愛したまふ故なり六汝一生いつまで
ム人を惡むべからず汝もこれお國ふ客たりしてと有をありハ彼等の生み
惡むべからず汝もこれお國ふ客たりしてと有をありハ彼等の生み
たる子等ハ三代にあよべきエホバの會ふいることを得べし○九

らずイスラエルの男子の中に男娼あるべからず夫娼妓の得たる價および狗の價を汝の神エホバの家に擧へりて何の誓願にも用ゐるべからず是等之どもふ汝の神エホバの憎ミたまふ者ありあり○夫汝の兄弟より利息を取べからず即ち金の利息食物の利息を凡て利息を生ずべき物の利息を取べからず三他國の人々よりい汝利息を取も宜し惟汝の兄弟より之利息を取べからず然て汝が往て獲とてろの地ふおいて汝は神エホバ凡て汝が手ふ爲とてろの事に福祥をくだしたまふべし○三汝の神エホバに誓願をかけふを汝に要めたまふべし怠る時ハ汝罪あり三汝誓願をかけさて自意の禮物之汝の神エホバに汝の誓願志口をもて約せしがて汝が口より出玄し事之守りて行ふべしとくに行ふべし○三汝の鄰の葡萄園に至る時汝意にまかせて

第三章四章一人妻を取りてこれを娶る後恥べき所のこれあるを見て此を好みたりば離縁狀を書いてこれが手ふ交しこれを汝の家より出すべしニろの婦これまで離縁狀を書いてこれが手ふわたして之を家より出たる後往て他の人に嫁ぐことをせんふ三後の夫もこれを嫌ひ離縁狀を書いてこれが手ふめどれるろの後の夫死るあるも是ハ已に身を汚玷したるに因て之を出したるの先の夫ふたよびこれを妻にめどるべからず是エホバの憎みたまふ事あればふり汝の神エホバの汝に與へて産業とあさまめたまふ地ふ汝罪を負すなけれ五人あらたふ妻を娶りたる時は之を軍に出すべからずまた何の職務をもこれに任すべからずろの人

は一年家に間居してろの娶る妻を慰むべし○六人ろは磨礪を質におくべらす是ろの生命をつみぐ物を質におくなれをあり
○セイエラエルの子孫の中あるろの兄弟を拐帶玄てこれを使ひ
またはみ色を賣る人あるを見ばろの拐帶者を殺志然して汝らの
中より悪を除くべし○ハ汝癪病を慎み凡て祭司たるレビ人レビ人レビ人レビ人レビ人レビ汝
に敷ふる所を善く守りて行ふべし即ち我カ彼カらに命ぜしひと
くに汝カミ守りて行ふカミベシカミ汝カミラカミグエジブトより出カミきカミたカミる路カミに
て汝の神ニ水バグミリアムに爲たまひしとてろの事を誌えよ○
凡て汝の鄰に物を貸カシあたふる時は汝みづからカミふをカミ家カミいり
てろの質物を外に持カシいだして汝に付すべしニカミの人もカミし困苦者カミあらを之カミ
の質物を留カシあきて睡眠カミふ就カシべからずカミかならずカミ日カミの入カミる頃カミろの
くに汝の神ニ水バグミリアムに爲たまひしとてろの事を誌えよ○
凡て汝の鄰に物を貸カシあたふる時は汝みづからカミふをカミ家カミいり
てろの質物を外に持カシいだして汝に付すべしニカミの人もカミし困苦者カミあらを之カミ
の質物を之カミに還カシすべし然せらの人のきの上衣カミをまとふて睡眠カミふ
汝カミを訴カシふるありて汝罪カミを獲カシん○夫父カミの故にカシよりて殺カシさ
其カミは貧カシき者カミふてろの心カミにカシふれを慕カシへカシあり恐カシらくは彼カミエホバ
地カミにてあんカシちの門カミの内カシに寄寓カシる他國カミの人カミふもカシあき之カミを虐カシぐカシべか
汝カミを曲カシべからずカミまた寡カシ婦カシの衣服カシを質カシに取カシべからずカミ汝カミを其處カシより贖カシひ
審判カシを曲カシべからずカミ汝カミの神カミエホバ汝カミを其處カシより贖カシひ
いだしたまへり是カシをもて我カシふの事をカシあせと汝カミに命カシずるあり○夫父カミの故にカシよりて殺カシさ
汝カミ田カシ野カシふて穀物カシを刈カシる時カシもしろは一束カシを田カシ野カシに忘カシれおきたら必カシし
返カシりてこれカシを取カシべからずカミ他國カミの人カミと孤カシ子カシと寡カシ婦カシとにみ色カシを取カシす

死^{スル}たる者の妻^{つま}いでは他^{たにん}人ふ嫁^{マツ}ぐべからず其夫の兄弟^{きやうだい}これの所^{ところ}に
盡^シ入りて色を娶^メりて妻^{つま}となし斯^カしてろの夫の兄弟^{きやうだい}たる道をこれに
後^{アフタ}を嗣^ガが玄^{ムカシ}めろの名^なをイスラエルの中^{なか}に絶^ゼざら志^{ムカシ}むへしセ然^{カク}とろ
の八^{ハチ}もしろの兄弟^{きやうだい}の妻^{つま}をめどるこ^トを肯^{ガヘン}ぜずばろの兄弟^{きやうだい}の妻門^{つまもん}
にいたりて長^{ミサシ}老^{シロウ}等^{など}に言^{ハシム}ベし吾^ガ夫^{ウフ}の兄弟^{きやうだい}はろの兄弟^{きやうだい}の名^なをイスラ
エルの中^{なか}ふ興^{ハシム}るこ^トを肯^{ガヘン}ぜず吾^ガ夫^{ウフ}の兄弟^{きやうだい}はろの兄弟^{きやうだい}の名^なを
にかれ固^{カニ}く執^{ハシム}り前^{マヘ}て我^ガはこれを娶^メることを肯^{ガヘン}ぜず吾^ガ夫^{ウフ}の兄弟^{きやうだい}はろの兄弟^{きやうだい}の名^なを
面^{カニ}に唾^{ツカキ}して答^{ハシム}て言^{ハシム}べ玄^{ムカシ}の兄弟^{きやうだい}の家^{いえ}を興^{ハシム}るみとを肯^{ガヘン}ぜ
は斯^カのごとくすべきありと+またろの人の名^なは鞋^{カツ}を脱^{ハシム}せざる者^{もの}に

第一回
泰なら志めたまふふ至らを汝アマレクの名を天より下より塗抹て之をおぼゆる者ゐら志むべし

汝の神エホバの壇のまへふ之を置べし我先祖は憫然ある時は祭司汝の手よりろの筐をとりて汝に申さん我はエホバガ我らに與へんと我らの先祖等に誓ひたまひし地に至れりと四然ある時は祭司汝の神エホバの汝に與へたまへる地に諸の土産の初を取て筐にいれ汝の神エホバの汝のうの名を置んとて選びたまふ處ふおきを擱へゆくべし三而しテ汝當時の祭司に詣り之にいふべし我は今日みんちの神エホバの汝泰なら志めたまふふ至らを汝アマレクの名を天より下より塗抹て之をおぼゆる者ゐら志むべし

一人の者の妻の夫を擊つ者の手より夫を救ひんとて進みより手を伸てうの人の陰所を執ふるあらば汝の妻の手を切おとすべし之を憫れみ視るべからず○汝の囊の中ふ一箇之大く一箇之小き二種の權衡石をいれおくべからず○汝の家に一箇之大く一箇之小き二種の權衡石を有べくまた十分ある公正き升斗を有べし然せど汝の汝にたまふ地に汝の日永からん矣凡て斯る事をなす者凡て正しのらざる事をあす者之汝の神エホバこれを憎みたまふあり○十七汝らダエシプロより出きたりし時ろの路ふおいてアマレク汝に爲たりし事を記憶よ夫即ち彼らは汝を途に逆へ汝の疲乏倦たるに乘じて汝の後ある弱き者等を攻撃り斯られら之神を畏れきりき自然を汝の神エホバの汝ふ與へて産業とあさ玄めたまふ地ふおいて汝の神エホバ汝の周圍の敵を盡く攻ふせて安

しまたレヒ人と客旅と孤子と寡婦とふこれを與へ全く汝の我ふ
命じたまひし命令のごとくせり我ハ汝は命令に背くずまたこれを
忘きざるあり古我ハみの聖物を喪の中ふ食ひし事あくまた汚
穢たる身をもて之を携へ出志し事あくまた死人のためにあれを
贈りし事あきなり我はわの神エホバの言に聽いたダひて凡て汝
が我命じたまへるごとく行へり十五願くは汝の聖住所ある天よ
り臨み觀汝の民イスラエルと汝の我らふ與へし地とふ福祉をく
だしたまへ是は汝のわきらの先祖等ふ誓ひたまひし乳と蜜との
流るゝ地あり○また汝の神エホバこれらの法度と律法とを行
ふことを汝に命じたまふ然を汝心を盡し精心を盡してこれを守
りあてふべしモ今日あんちエホバを認めて汝の神とあし且ろ
の道に歩みろの法度と誠命と律法とを守りろの聲に聽いたガは
んと言ひテ十八今セ日エホバまたろの言しあとく汝を認めてろの寶の

民とおし且汝ふろの諸の誠命を守れと言たまへりナエホバ汝の名譽と聲聞と榮耀とを志てろの造色る諸の國の人によさら志めたまそん汝はろの神エホバの聖民とあることろの言たまひしごとくあらん

第二十七章

モーセイスラエルの長老等とももふありて民ふ命じて曰ふ我グ今日あんぢらに命ずるての誠命を汝ら全く守るべシニ汝らヨルダンを済り汝の神エホバダ汝ふ與へたまふ地ふいる時之大なる石數箇を立て石灰をろの上に塗りミ既ふ済りて後ちこの律法は諸の言語をろの上に書すべ然すきを汝の神エホバの汝ふたまふ地ある乳と蜜の流るゝ國に汝いるを得ること汝の先祖等の神エホバの汝に言たまひしおとくあらん四即ち汝らヨルダンを済るにあよをミ我ガ今日あんぢらに命するろの石をエヘル山に立て石灰をろの上に塗べし亞また其處ふ汝の神エホバ

のために石の壇一座を築くべし但し之を築くにハ鐵の器を用ゐるべからず六汝新石をもて汝の神エホバのろの壇を築さろの上にて汝の神エホバふ燔祭を献ぐべし汝また彼處にて酬恩祭を獻げろの物を食ひて汝の神エホバの前ふ樂むべしハ汝乙の律法の諸の言語をろの石に明白に書すべし○九モーセまた祭司たるレビ人ともにイスラエルの全家を告て曰ふイスラエルよ謹みて聽タ汝は今日汝の神エホバの民とおきりサ然を汝の神ニホバの聲ふ聽えたびひ我グ今日汝に命ずる之ダ誠命と法度をあこあふべし○ナラの日にモーセまた民に命じて言ふナ汝らボヨルダンを渡りし後是らの者ケリシム山にたちて民を祝すべし即ちシメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ヨセフおよびナフタリサレム人天聲にてイスラエ

ルは人々を告て言へし。偶像の工人は手の作ふしてニホバの憎みたまふ者は詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。もろの鄰の地界を侵す者は詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。盲者を玄て路に迷ひ志むる者。詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。十九客旅孤子。および寡婦の審判を枉る者。詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。三の父の女子。また三の母の女子たる己の姉妹。三の妻と寝る者。三の母と寝る者。詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。ミ凡て獸畜と交る者。詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。ミ三の父の女子。また三の母の母の女子たる己の姉妹。三の妻と寝る者。三の母と寝る者。詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。

二四暗の中ふろの鄰を擊つ者。詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。豆報酬をうけて無辜者を殺害てろ。血を流す者。詛はるべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。民のみふ對へてアーメンといふべし。

第一二八章

一汝もし善く汝の神エホバの言ふ聽玄たダふ時。その諸の福祉汝に臨み。汝におよん。四また汝の生の羊の産に福祉あ。五また汝の飲籠と汝の壺盤。ふ福祉あ。六汝を入ふも福祉あ。を得出るにも福祉を得。七汝の敵起て汝を攻る。わきをエホバ汝を玄て之を打敗ら。玄めたまふべし。彼ら之一條の路より攻きた。

おおいて汝の一切の邑々を攻圍み遂にろの汝が頼む堅固ある高
き石垣をてとぐく打壇し汝の神エホバの汝にたまへる國の中
ある一切の邑々をてとぐく攻圍むべし亞三汝れ敵に圍まき烈し
く攻あやまさるよよりて終ふろの汝の神エホバふ賜される汝
の胎の産ある男子女子の肉を食ふにいたらん吾汝らの中の柔生
育にして軟弱ある男すらもろの兄弟とろの懷の妻とろの遺れる汝
子女とを疾視吾己の食ふろの子等の肉をこの中の誰にも與ふ
を攻ふやまして何物をも其人ふ遣さざり又汝らの中の柔生
育に足の跡を土につくることをも敢てせざる者すらもろの
夫とろの男子とろの女子とを疾視吾己の足の間より出る胞
衣と己の産ところの子を取て密ふこゑを食はん是は汝の敵あん
ごために足の跡を土につくることをも敢てせざる者すらもろの
柔生育ふして纖弱ある婦女すみはちろの柔生育にして纖弱ある
を攻ふやまして何物をも其人ふ遣さざり又汝らの中の柔生
育にして軟弱ある男すらもろの兄弟とろの懷の妻とろの遺れる汝
子女とを疾視吾己の食ふろの子等の肉をこの中の誰にも與ふ
を攻ふやまして何物をも其人ふ遣さざり又汝らの中の柔生
育にして軟弱ある男すらもろの兄弟とろの懷の妻とろの遺れる汝
子女とを疾視吾己の食ふろの子等の肉をこの中の誰にも與ふ
を攻ふやまして何物をも其人ふ遣さざり又汝らの中の柔生
育にして軟弱ある男すらもろの兄弟とろの懷の妻とろの遺れる汝
子女とを疾視吾己の食ふろの子等の肉をこの中の誰にも與ふ
を攻ふやまして何物をも其人ふ遣さざり又汝らの中の柔生
育にして軟弱ある男すらもろの兄弟とろの懷の妻とろの遺れる汝
子女とを疾視吾己の足の間より出る胞

ちの邑々を圍み烈しくこれを攻ふやますによりて何物をも得ざ
れをみりエ汝もしこの書に記あるたるての律法の一切の言を守り
て行はず汝の神ニ水バといふ榮ある畏るべき名を畏れずバエ
本バ汝の災禍と汝の子孫の災禍を烈しくしたまはん其災禍は大
にして久しくろの疾病は重く玄て久しかるべき名を畏れずバエ
ダ懼きし疾病あるエシブトの諸の疾病を持きたりて汝の身ふ
害ひ附玄めたまはんまた此律法の書ふ載ざる諸の疾病と諸の災
ひを汝の滅ぶるまでエ本バ汝に降したまはん汝らは空の星の
ひとくふ衆多かりしも汝の神エホバの言に聽玄たゞはざるふよ
りて残り寡ふ打なさるべしエホバまた汝
を喜びすることを喜びしがとく今之エホバ汝らを滅ば志絶すこと
エホバ地のこの極よりかの極までの國々の中に汝を散したま之

ん汝は其處にて汝も汝の先祖等も知ざりし木または石なる他の神々ふ事へん益ろの國々に中ありて汝は安寧を得ずまた汝の精神を足らを休むる所を得じ其處にてエホバ汝を去て心懼き目昏みゆ汝は夜晝とあく恐怖をいだき汝の生命は細き糸ふ懸るが如く汝に見ゆ汝心に懼る所によりまた目に見る所よりて朝にあいてそ言ふん嗚呼夕あらを善らんとまた夕において之言ふ汝をエシブトに善らんとエホバあんぢらを角ふのせ彼の昔わが汝に告て汝は再びこれを見る事あらじと言たるるの路より汝をエシブトに曳ゆきたま之ん彼處にて人汝らを賣て汝らの敵の奴婢とあさん汝らを買ふ人もあらじ

第一

エホバモーセに命ヒモアブの地にてイスラエルの子孫と契約を結を志めたまふろの言は斯のごとし是はホレブにて

られらを結びし契約の外なる者なりニモーセイスラエルの全家かを呼あつめて之に言ける汝ら之エホバグエシブトは地においをて汝の目の前にてバロどろの臣下どろの全地とに爲たまひし了一切の事を觀たりミ即ち其大ある試煉と徵證と大ある奇跡とを忘めたまへり五四十年の間われ汝らを導きて曠野を通りしダ汝らの身の衣服之古びず汝の足の鞋ハ古びざりき六汝らはまたバシンをも食はず葡萄酒をも濃酒をも飲さりき七汝らは我わグ汝らの神エホバあることを知りセ我らの處ふ來りし時ヘシボンは王シボンおよびバシヤンの王オグ我らを逆へて戰ひしが我ナセの半支派とふ與へて産業とふさ玄めたり然を汝らてけ契

エシブトの地に住をりしゝ如何か國々を通り來りしか汝らこそを知り。汝らはまた木石金銀にて造る惜むべき物もび偶像のうの國々ふあるを見たり。然ば汝らの中に今日ふ心に我らの神エホバを離れて其等の國々の神に往て事ふる男女宗族支派あどあるべからず。又あんぢらは中に草庵または茵蓆を生する根あるべからず。斯る人はこの呪詛の言を聞もうの心に自ら幸福あり終には醉飽る者をもて渴りる者を除くふいたらんと。是のごとき人之エホバかあらず之を赦たまひ還てエホバの忿怒と身に加えらんエホバつひにろの人の名を天アム下より抹されたりたまふべし。ミエホバすみはちイスラエルの諸の支派の中よりろの人を分ちてこきに災禍を下しこの律法の書ふしるしたる契約中比

約の言を守りてこれを行ふべし。然きば汝らの凡て爲とてろふ祥あらん。汝られども今日ふんぢらの神エホバの前ふ立つ即ち汝らは首領等みんぢらは支派ふんぢらの長老等もよび汝らの收伯等もよびイスラエルの一切の人。汝らの小さき者等汝らの妻ふらびに汝らの營の中にをる客旅も凡て汝らはために薪を割る者より水を汲む者ふいたるまで皆エホバの前に立てさニ汝の神エホバは契約に入らんと志。又汝の神エホバの汝ふむかひて今日ふしたまふとてろの誓に入んとす。三然をエホバさきふ汝ふ言しことくまた汝の先祖アブラハムイサクヤコブに誓ひしとく今日ふんぢを立て己の民とみし己みづから汝は神とありたまはん。昔我はたま汝らと而已此契約と誓とを結ふふあらす。今日此にてわきらの神エホバの前に我らとよもにたちをる者あらびに今日われらとよもふ此にたち居ざる者ともこれを結ぶふありま。我らは如何にた汝の先祖ア布拉ハムイサクヤコブに誓ひしとく今日ふんぢを立て己の民とみし己みづから汝は神とありたまはん。昔我はたま汝らと而已此契約と誓とを結ふふあらす。今日此にてわきらの神エホバの前に我らとよもにたちをる者あらびに今日われらとよもふ此にたち居ざる者ともこれを結ぶふありま。我らは如何に

諸の咒詛のごとく玄たまはん三汝等の後に起る汝らの子孫の代
の人がよび遠き國より來る客旅て地の災禍を見またエホバグ
ふの地に流行せたまふ疾病を見て言てころあらん三即ち彼ら見
るふろの全地は硫黃どあり鹽どあり且燒土どありて種も蒔れず
産する所もあく何れ草もろの上に生ぜず玄て彼の昔エホバグ
ムの震怒と忿恨とをもて毀ちたましソドムゴモラアデマゼボイ
ムの毀たれたると同じかるべけ色を云彼らも國々の人も之な言
んエホバ何とて斯てこの地になしたるや此の烈しき大いある震怒
は何事かやと云ろの時人應へて曰ん彼らはろの先祖たちの神
水バグエシブトの地より彼らを導きいだして彼らはろの神々に結びたる
れを拜みたるが故ありモ是をもてエホバの災禍をこれに下し
を發してこの書ふ玄したる諸の災禍をこれに下し
れを云往て已の識すまた授さづからざる他
水バグエシブトの地にむかひて震怒

第二十章

パ震怒と忿恨と大なる憤怨をもて彼らをこの地より祓とりて
これを他の國ふ投やきりろの狀今日のごとし元隱微たる事は我ら
の神エホバふ屬する者ありまた顯露さきたる事は我らと我らの
子孫に屬玄我らを玄てこの律法の諸の言を行之玄むる者あり
第三十章 一我グ汝らの前に陳たるこの諸の祝福と呪詛の事す
に汝ふ臨ミ汝うの神エホバふ遙やらせたる諸の國々ふおいて此
事を心に考ふるふいたリニ汝と汝の子等ともに汝の神エホバに
起かへり我づ今日ふんちふ命ずる所に全たく循びひて心をつく
し精神をつくしてエホバの言ふ聽玄たグはセミ汝の神エホバ汝
々くより汝を解きて汝を憐れみ汝の神エホバ汝
國の俘擄を解きて汝を憐れみ汝の神エホバ汝
の神エホバ其處より汝を集めたまはん曰汝たとひ天涯ふ遙やらるゝとも汝
汝を志てろの先祖其處より汝を擄へりたまそん
五 汝の神エホバ汝を志てろの先祖其處より汝を擄へりたまそん

て汝またこ色を有つふいたらんエホバまた汝を善し汝を増て汝の先祖よりも衆ら玄めたまえん六面して汝の神エホバ汝の心と汝の子等の心に割禮を施てし汝を志て心を盡し精神をつくして汝の神エホバを愛せ志め斯して汝に生命を得させたまふべしセ汝の神エホバまた汝の敵と汝を悪み攻る者とにこの諸の災禍をゐうむらせたまれん八然と汝らは再びエホバ行言に聽いたゞひ然我おの今ふんぢらに命するろの一切の誠命を行ふふいたらん胎の産と汝の家畜の産と汝の地の産に富志めて汝が手をうくる諸物と汝が汝を善したまへん即ちエホバ汝の先祖たちを悦てびしとく再び汝を善したまへん是は汝ろの神エホバの言に聽いたゞひ此律法の書ふ志されたる誠命と法度を守り心をつくし精神を盡して汝の神エホバに歸するによりてなりナ我ダ今日ふんぢに命す

る誠命は汝グ理會グたき者にあらずまた汝に遠き者ふあらずま是は天ふ在ならぬを汝は誰か我らのためふ天ふのぼりてこれを我らに持くだり我らにこ色を聞せて行はせんのと曰ふふおよんかと曰ふおよをす古是言は甚だ汝ふ近く玄て汝の口にあり汝の心にあ色を汝こ色を行ふとを得べし五視よ我今日生命と福の神エホバを愛しろの道に歩みろの誠命と法度と律法とを守る汝の徳および死と災禍を汝の前に置りま即ち我今日汝にむかひて汝のことを命ずるなり然ふさば汝生みぐらへてろの數衆くあらんまた汝の神エホバ汝グ往て獲るところの地ふて汝を祝福たまふべしも然ど汝もし心をひるべへして聽從ダとす誘はれて他の神々を拜みまたこれふ事へふを我今日汝らふ告ぐ汝らの必ず滅び

ん汝らはヨルダンを渡りゆきて獲るところの地にて汝らの日を永うすることを得ざらん。我今日天と地を呼て證とるす我の生命と死および祝福と咒詛を汝らの前に置り汝生命をえらぶべし然せば汝と汝の子孫生存らふるふとを得ん。即ち汝の神エホバを愛してろの言を聞き且こゑふ附従おふべし斯する時は汝生命を得ておつろの日を永うすることを得エホバお汝の先祖アブラハムイサクヤコブに與へんと誓ひたまひし地に住ことを得ん。

第三十一章 一 茲ふモーセ往てイスラエルの一切の人にての言をのべたりニ即ちこゑに言ける。我ハ今日すでに百二十歳おを最早出入をするふと能はず且またエホバ我おむかひて汝ハこのヨルダンを済ることを得ずと宣へリ。三汝の神エホバミブから汝に先だちて渡りゆき汝の前よりこの國々の人を滅ぼしさりて汝ふこゑを獲させたまふべしまたエホバのかつて宣まひしごとく

ヨシニア汝を率ゐて済るべし。四エホバさきにアモリ人の王シホンとオグおよび之ダ地ふあしたる如くまた彼らにも爲てこれを滅ぼしたまはん。五エホバかれらを汝らは前に付したまふべきを汝らい我ダ汝らに命ぜし一切の命令のごとくこれに爲べし。六汝ら心を強くしかつ勇め彼らを懼るゝ勿き彼らは前に懼くあかれ其之汝の神エホバみづから汝とよもに往きたまへをあり必ず汝を離きず汝を棄たまはじセ斯てモーセヨシニアを呼びイスラエルの一切の人目の前にてこゑふ言ふ汝れこの民とよもに往くるべき故ふ心を強くしかつ勇め汝彼らにこれを獲させるとく入るべきの故ふ心を強くしかつ勇め汝彼らは前に懼くあかれ其之汝の神エホバみづから汝に先だちて往きたまそんまた汝とよもふ居り汝を離きず汝を棄たまはじ懼るゝ勿れ驚くあられとを得べし。八エホバミヅから汝に先だちて往きたまそんまた汝とよもふ居り汝を離きず汝を棄たまはじ懼るゝ勿れ驚くあられとよもふ居り汝を離きず汝を棄たまはじ懼るゝ勿れ驚くあられとよもふ居り汝を離きず汝を棄たまはじ懼るゝ勿れ驚くあられ○モーセのみの律法を書きエホバは契約の権を昇ところのレビ

の子孫たる祭司およびイスラエルの諸の長老等ふ授けたり。而してモーセ彼らに命じて言けるは七年の末年すみは放釋の年。の節期にいたり結茅の節ふもいてモーセイスラエルの人皆みんちの神エホバは前に出んとてエホバの選びたまふ處に來らん。此時ふ汝イスマラエルの一切の人の前にこの律法を誦てこれを聞すべし。即ち男女子等および汝の門の内ある他國の人など一時の民を集め彼らをしてこれを聽かつ學ば志むべし。然すれぞ彼等汝のかくエホバを畏れてこの律法の言を守り行えん。また彼らの子等のことを知ざる者も之を聞いて汝の神エホバを畏る。又これを學ぶん汝らのヨルダンを渡りゆきて獲どみろの地に存ふる日の間つねに斯すべし。○十四エホバまたモーセに言たまひけるは視よ汝の死る日近しヨシュアを召してともに集會の幕屋に立て我うれに命ずるところあらんとモーセとヨシュアすなはち往て集會の幕

屋ふ立ける。ふ十五エホバ幕屋ふあいて雲の柱の中に現はれたまへりうの雲の柱は幕屋の門口の上に駐まれり。エホバモーセに言ひ往とてろの他國の神々と暮ひて之と姦淫を行ひかけ我を棄て我わざりを發し彼らを棄て吾面をかれらふ隠すべければ彼らは呑はひろばされ許多の災害と難かれらに臨まん。是をもてうの日に彼わざり言ひん是等の災禍の我らふせむは我らの神エホバわきらとふて他のが神々ふ歸するによりて我うれ日ふぞのふらす吾面をかれらに臨まん。是をもてうの日に彼ひらに隠さん。十九然を汝ら今てこの歌を書きイスラエルの子孫ふてきひて我の證とあらぬめよ二十我うきらの先祖たちふ誓ひし乳と蜜

の流るよ地にのきらを導きいらんに彼らは食ひて飽き肥太るに
あよを翻へりて他の神々に歸してこきに事へ我を輕んじ吾契
約を破らんニ而して許多の災禍と難難彼らに臨むにいたる時
この歌のきらふ對ひて証をあす者とならん其はこの歌のきらの
口にありて忘るゝことあるべかられをあり我いまだわグ誓ひし
地ふ彼らを導きいらざるふ彼らに早く已に思ひ量る所あり我
れを知るとミモーセすみはちろの日にこの歌を書いて色をイス
ラエルの子孫ふ歌へたりミエホバまたスンの子ヨシユアに命じ
て曰たまはく汝はイスラエルの子孫を我の其に誓ひし地に導き
言モーセこの律法の言をてどぐく書ふ書玄るすことを終たる
時ニモーセエホバの契約の櫃を昇とてろのレビ人に命じて言け
いるべき故に心を強くしるつ勇め我なんちともに在べしと
いふ是の律法の書をとりて汝らの神エホバの契約の櫃の傍に

これを置き之を玄て汝おむろひて証をあす者たら玄めよニモ我
んぢの悖る事と頑梗なるとを知る観よ今日わざの生存へて汝らと
ともにある間すら汝らはエホバふ悖きり況てわざ死たる後に
いてをや元汝らの諸支流の長老等よりび牧伯たちを吾許に集め
よ我てきらの言をかれらふ語り聞せ天と地と呼てあれらに証
臨まん是あんぢらエホバの惡と觀たまふ事をあてゐひ汝らの手で
の行爲をもてエホバを怒らするふよりてあり三かくてもーセ
スラエルの全會衆ふこの歌の言をてどぐく語り聞せたり
一 天よ耳を傾むけよ我語らん地よ吾口の言を聽けニ
わざ歌は雨の降るごとし吾言は露のあくびとく雲の若艸の
上にふるごとく細雨の青艸の上にくだるダ如しニ我モエホバヒ

御名を頌揚ん我らは神に汝ら榮光を歸せよ四エホバは磐にましましてろの御行爲之完くろの道之みる正しまた眞實ある神にましまして惡きとてろ無し只正く玄て直くいます五彼らエホバ
ふむのひて惡き事をあこみふ者にてろの子ふらす只て乞フ
玷どなるのみ其人と爲は邪僻にして曲色り六愚にして智慧あき
民よ汝らダニエホバふ報ゆるてとはのごとくあるかニホバは汝の
父ふして汝を贖ひまた汝を造り汝を建たまはずや七昔の日を憶
え過ふし世代の年を念へよ汝の父に問へし彼汝ふ帝さん汝の中
の年老に問へし彼ら汝に語らんハ至高者人の子を四方に散玄て
萬の民ふして汝を四方に照して諸の民
の境界を定め。六彼業を分ちイスラエルの分はるの子孫の數に照して
の産業たりヤエホバ此色を荒野の地に見みて是に獸の吼る曠野に
遇ひ環りかてみて之をいたり眼の珠のごとくにこれを護りた

子女子を怒りてこれを棄たまふ事するはち曰たまはく我わお面
をかれらふ隠さん我から終を觀ん彼らは三ふ背き恃る類の
者を眞實あらざる子等ありニ彼らは神ならぬ者をもて彼
を起させ虛き者をもて我を怒らせたれを我も民みらぬ者をもて彼
らふ嫉妬を起させ愚ふる民をもて彼らを怒らせん三即ちわが震
怒ふよりて火燃いで深き陰府に燃いたりまた地とるの產物とを
焼つくし山々の基をもやさん三我禍災をかららの上ふ積るさね
吾矢をかれらふむうひて射つくさん旨彼らは餓て瘦あどろへ熱
の病患と惡き疫とによりて滅びん我またあれらをして獸の歯ふ
惶ありて少き男をも少き女をも幼兒をも白髪の人をも滅ぼさん
矣我は曰ふ我彼等を吹掃ひ彼らの事をして世の中に記憶らるゝ
こと無ら玄めんと必然れども我之敵人の怒を忍る即ち敵人ふ
らの譬は我らの譬は我らの譬は我らの譬は我らの譬は我らの譬
を争か一人ふて千人を逐ひ二人ふて萬人を敗る乙水バこれを付さ
れを思慮らんものを彼らはまつたく智慧あき民ありの中ふは
終を思慮ある者ふし鳴呼彼らもし智慧あらむ之を了りてろの身の
を争ひの葡萄の樹之ソドムの葡萄の樹またゴモラの野より出たる
葡萄は毒葡萄ろの球は苦しき三ろの葡萄酒之蛇の毒のごとく
の悪き毒のとし是は我の許に蓄へあり我の庫ふ封じて
有にあらずや蓋彼らの足の躊躇は我の仇をかへし應報をあさ
るの災禍は日は近く其の足の躊躇は我の許に蓄へあり我の仇を
かへしに備へらきたる事之迅速にいたる者彼は
んうの災禍は日は近く其の足の躊躇は我の許に蓄へあり我の仇を
かへしに備へらきたる事之迅速にいたる者彼は
いん其の彼らの力のすでに去うせて擊ぐをたる者も擊ぐれさる
る乙水バつひにろの民を鞠きまたろの僕に憐憫をくはへたま
いん其の彼らの力のすでに去うせて擊ぐをたる者も擊ぐれさる

を見あやまりて言ん我らの手能くあれを爲り是れすべてニ水バ
を争ひの葡萄の樹之ソドムの葡萄の樹またゴモラの野より出たる
葡萄は毒葡萄ろの球は苦しき三ろの葡萄酒之蛇の毒のごとく
の悪き毒のとし是は我の許に蓄へあり我の仇をかへし應報をあさ
るの災禍は日は近く其の足の躊躇は我の許に蓄へあり我の仇を
かへしに備へらきたる事之迅速にいたる者彼は
いん其の彼らの力のすでに去うせて擊ぐをたる者も擊ぐれさる
る乙水バつひにろの民を鞠きまたろの僕に憐憫をくはへたま
いん其の彼らの力のすでに去うせて擊ぐをたる者も擊ぐれさる

者もあらずみれるを見たまへをあり三モエホバ言たまはん彼らの神々は何處ふをるや彼らグ賴める磐は何處かや三即ちろの犠牲の膏油を食ひろの灌祭の酒を飲たる者は何處ふをるや其等をして起て汝を助けしめ汝を護らしめよ三汝ら今觀よ我ころハ彼より我の外には神あし殺すことを活すことを擊こと愈すことは凡て我にひて手をあげて言ふ我は永遠に活く四我わが閃爍く刃を磨ぎ審判を乞うを返報をあさん四我乞う箭をして血に醉志め吾劍を玄て肉を食首の肉をこれふ食はせん四國々の民よ汝らエホバの民のために志めん即ち殺る者と捕らる者との血を之ふ飲せ敵の髪あ同き仇をかへしろの地とろの民の汚穢をのそきたまへをあり四モ

1セスンの子ヨシュアとよもに到りて此歌の言をことぐく民ふ
ふ詠きうせたり四モ一セこの言語をことぐくイスラエルの一切の人ふ告をひりて四モこれふ言けるは我ダ今日ふんぢらに對ひて証するこの一切の言語を守りおこふふことを命ずべし五モ抑て云は汝らにはろのヨルダンを濟りゆきて獲ところの地にて汝らの生命ありこの言ふよりて汝らうするてとを得るあり〇四モ此日ニエホバモ一セふ告て言は汝らはく四モエリコに對するモアブの地のアバリム山ふ登りて子ホ山にいたり我ダイスラエルの子孫ふあたへて産業とあさゑむるカナンの地を觀わたせよ五モ汝はろの登る山ふ死て汝は民に列りしとくふるいならん是みほアロングホル山に死てろの民ふ列りしとくふるい是は汝らチシの曠野ふるカデシはメリバの水の邊ふるい

肩の間に居んヨセフについては言ふ願くはろ地エ水バの祝
福をかうむらんことを即ち天に寶物ある露淵は底ある水十四日
の寶物大產する寶物十五古山の嶺に寶物老嶺
よりて産する寶物十六セブルンふつ
恩惠あるとヨセフ地に寶物月十五
らんも彼れ牛の首の首に中産物あよび柴の中に居たまひし者
をもて國々の首出はるの中産物あよび柴の中に居たまひし者
の萬民がに臨ミうの産物あよび柴の中に居たまひし者
萬くをうの身に榮光あり別にありたる者の頂に降
に汝は是れ衝たふして直ありてうの角の兜の頂にいた
に彼れ外にマナセの千せん地の四方の極にまで至
盈きらりマナセの千千地の四角の兜の頂にいた
に物を國に出て快楽の千千地の四角の兜の頂にいた
言ひを國に出て快楽の千千地の四角の兜の頂にいた
伏し腰を國に出て快楽の千千地の四角の兜の頂にいた
と首の頂とを搔裂ん

ニ 彼は初穂の地を自己のためふ選べり其處にハ大將の分もあ
公義と審判とをあこあへリミダンについては言ふダンは小獅子
のごとくバシヤンより跳り出づミナフタリについては言ふナフ
タリヨ汝は大に福祉をかうむりエホバの恩惠にうるはふて西と
幸い福ありまた其兄弟等ふてえて恵まきろの足を膏の中に浸さん
云汝の門門之鐵のごとく銅のごとしこの能力は汝が日々ふ需む
云汝の部を獲ん言アセルについてハ言ふアセルハ他の子等よりも
幸い久に在天すふに循之ん云エシユルンよ全能の神のごとき者は外ふ無
し是れにて汝を助クタ雲ふ駕て永遠の腕あり敵人を汝に住みしたまふモ
るどてろに神乗て循之ん云エシユルンよ全能の神の能力は汝が日々ふ需む
はらひてす神乗て循之ん云エシユルンよ全能の神の能力は汝が日々ふ需む
穀と酒との多き地に獨り在んろばせよと云イスラエルハ安然に住みをりヤ

ふ降すべし元イスラエルよ汝の幸福あり誰か汝のごとくエホバに救ひし民たらんエホバ汝を護る楯汝の榮光の劍あり汝の敵ひ汝ふ詔ひ服せん汝のかれらの高處を踐ん

第三十四章

一斯てモーセモアブは平野より子ボ山にのぼりエリ

コに對するビスガの巔ふいたりけれどエホバ之ふギレアデの全地をダムまで見しニナフタリの全部エフライムとマナセの地もヨアビユダの全地を西の海まで見しミ南の地と棕櫚の邑あるエリコの谷の原をゾアンまで見したまへり四而してエホバを起ふ言ひたまひけるハ我アブラハムイサクヤコブにむかひ之を汝の子孫ふあたへんと言ひて誓ひたりし地ハ是より我あんちを志て之を得せ志む然そ汝ハ彼處に濟りゆくことを得すと五斯のとどくエホバの僕モーセハエホバの言のとどくモアブの地に死りエホバベオルに對するモアブの地の谷にこれ

を葬り給へり今日までの墓を知る人あしそモーセハロの死たる時百二十歳あり立ダラの目ハ瞑ますろの氣力ハ衰へざりきハイスラエルの子孫モアブの地ふあいて三十日のあひだモーセのために哭泣をなしけるグモーセのために哭き哀しむ日つひふ満てきダヒエホバのモーセに命じたまへる者あリイスラエルハ子孫ハ之ふ聽り九ヌンの子ヨシニアハ心ふ智慧の充る者モーセの手を玄たダヒエホバの面を對せて知たまへる者ありきハ即ちエホバエシハエルは中にてこの後モーセのとどき預言者ありきハ即ちエホバエシハエルは中にあるかを巴ロとろの臣下とろの全地とにつかはして諸の徵證と奇蹟を行ひせたまへりまたイスラエルハ一深切ての人の目の前ふてモーセの大なる能力をあらわし大なる畏るべき事を行へり

申命記終

95-91138

立教大学図書館



95-91138